

Ḥasan ābād – Rūstāye Kolein

(北緯 35 度 20 分 14 秒、東経 51 度 18 分 40 秒、標高 945 メートル)

Ya‘qūb b. Eshāq Kolein¹⁵⁴

村はずれの墓地の中。

ザリーではなくガラスケースに墓石が収められている。

ガージャール朝時代に建設されたものと見なされているが¹⁵⁵、近年、改修が行われている。

(86) Emāmzāde Ḥosein (写真 228,229,230)

Ḥasan ābād – Qesmate Shomaliye Rūstāye Kolein

(北緯 35 度 20 分 93 秒、東経 51 度 18 分 06 秒、標高 955 メートル)

村の北に広がる畑の中¹⁵⁶。

廟は日干し煉瓦と土でできた小さなもので、畑よりもわずかに高くなっている。

廟の中に、壁に石を貼り付ける占いが行われている跡や、ろうそくを灯した跡が多数見られる。子授け祈願のおまじないも見られるなど、近隣の人々の信仰を集めていることが分かる。

ガージャール朝時代の建設と見なされている¹⁵⁷。

(87) Shāhzāde Ebrāhīm va Shāhzāde Eshāq (写真 231,232,233)

Ḥasan ābād – Rūstāye Āzād

畑の中。周囲を墓地に囲まれた廟。

近年、増改築が行われ、ホセイニーエなどが付け加えられている。現在も工事は続けられている。オリジナル部分はガージャール朝時代のものとされる¹⁵⁸。

ザリーはなく、緑の布をかけた墓石状のものが二つ並んでいる。どちらがエブラーヒームでどちらがエスハークかははっきりしない。

廟の中に、カルバラーで殺された 72 人について書かれたポスターがずらりと並べられている。

(88) Emāmzādegān Aiyūb va Yūshe’ (写真 234,235)

Ḥasan ābād – Rūstāye Kūshak

¹⁵⁴ Sarvqadī, p.105.

¹⁵⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.208.

¹⁵⁶ Sarvqadī, p.102.

¹⁵⁷ *Pazhūhesh-nāme*, p.208.

¹⁵⁸ *Pazhūhesh-nāme*, p.207.

(北緯 35 度 18 分 59 秒、東経 51 度 21 分 08 秒、標高 921 メートル)

Emāmzādegān Aiyūb va Yūshe’ az Navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

周囲から少し高くなっている場所。現在はほぼ完全に崩壊し、北面の壁しか残っていない¹⁵⁹。

緑色の布をかぶせた墓石があり、その上にはランプが置かれている。布は埃をかぶっておらず、ろうそくの跡があるなど人が訪れている様子が見られる。

周囲は墓地。1350 年代 (1970-80 年代) のものが新しい。墓地の一角には新しいスニー派式の墓が見られる。これは、近くにある煉瓦工場で働くクルド人のものとのこと。

廟から少し離れたところに、カールヴァーンサラヤや民家らしき建物の集まった廃墟が見える。

建築年代は 7-8/13-14 世紀と推定されている¹⁶⁰。

(89) **Emāmzāde Shāhzāde Malek** (写真 236,237)

Ḥasan ābād – Rūstāye Anīs ābād

現在はバードの敷地の中。Emāmzāde Bībī Khājer Khātūn の近く。

ザリーは持たず、背の低い、緑の布をかけた墓石があるのみ。

個人の所有地の中にあるため訪れる人は減り、Emāmzāde Bībī Khājer Khātūn の方へ行く人の方がずっと多いとのこと。

廟の建築年代はガージャール朝末期とされる¹⁶¹。

(90) **Emāmzāde Bībī Khājer Khātūn** (写真 238,239,240)

Ḥasan ābād – Rūstāye Eshtehāzān

Emāmzāde Bībī Khājer Khātūn b. Emām Mūsā b. Ja’far

村はずれの街道沿いにある廟。周囲は墓地。

三段になったドームを持つ古い廟。

ザリーは持たず、緑の布をかぶせた墓石が置かれている。

非常によく手入れされたハラムの様子や、シャムダーンに残されたろうそくの跡、墓の上に置かれた鏡をはじめとするさまざまなものに結ばれたダヒールなどからも、人が良く訪れていることが窺える。エシュテハーザーン村だけでなく、近隣の人々の信仰を集めているとのこと。

¹⁵⁹ Sarvqadī, p.98. これによると、二つのドームを持つ小さな日干し煉瓦と泥でできた廟であり、修理の必要があるとなっている。筆者が訪れた 2003 年には崩壊しており、瓦礫も取りのけられていたが、Sarvqadī が何年に現地を訪れたのか、あるいは何年に書かれた資料を根拠にどのように記述しているのかは分からない。筆者が訪れた廟が別なものであった可能性もあるが、村の住人たちによると、これ以外に廟はないとのことであった。

¹⁶⁰ Pazhūhesh-nāme, p.208.

¹⁶¹ Pazhūhesh-nāme, p.207. ここでは Shāhzāde ではなく Bībī となっている。

廟の建築年代はガージャール朝時代と考えられている¹⁶²。

(91) Emāmzāde Sho‘eib (写真 241,242,243)

Ḥasan ābād – Rūstāye Raḥīm ābād

ドームや壁などが大きく崩落しており、瓦礫を乗り越えないと廟の内部に入るができない。

村からは離れた畑の中。

現在は使われていない墓地に囲まれている。

ろうそくを灯した跡など人が訪れている痕跡は見られる。

廟の内外に盗掘の跡が見られ、盗掘により、廟だけではなく墓も崩壊している。

(92) Do-qolū (写真 244,245)

Ḥasan ābād – Rūstāye ‘Alī ābād

村はずれの畑の中。小さなタッペの脇。

高さ一メートルほどの、一人が入れば一杯になるような小さな廟。

人は良く訪れているらしく、手入れが行き届いている。

周辺の村の人によると、二人の子どもの墓と言われており、誰の子供かは分からないとのこと。

周囲には古い墓が数基見られるが、新しいものは見られない。

(93) ‘Ein va Ghein (写真 246,247)

Ḥasan ābād – ‘Alī ābād

ロバーテ・キャリーム街道沿いの小さな丘の上。

周囲は村の墓地。

古い廟を増改築中。

金属製のザリーが置かれているが、それ以前の古い木のザリーも分解され、残されている。ダヒールが結ばれていたり、南京錠が付けられているので無下には扱えないとのこと。

(h) エスラーム・シャフル区 (Eslām Shahr)

北をテヘラン、東をレイ郡、南をロバーテ・キャリーム、西をシャフリヤールに囲まれた郡。以前はレイ郡に属していたが 1376S.H./1997年に郡として独立した。中心都市のエスラーム・シャフルは、革命前はガーセム・アーバーデ・シャーヒーという名で呼

¹⁶² Pāzhūhesh-nāme, p.207.

ばれていた。

古来、ガナートや表流水、地下水を用いた農業、牧畜が産業の中心であったが、近年、テヘラン市に隣接し、イラン各地への交通の起点となっているという地理的条件を利用して、テヘラン-サーヴェ街道や鉄道を利用した商業や工業が盛んになっている。

紀元前からイスラーム期にかけての遺跡が多く存在することから、古くから人がこの地域に定住していたことは明らかであるとされている。

(94) Emānzāde ‘Aqīl (写真 248,249,250)

Eslām Shahr

Emānzāde ‘Aqīl b. Emām Mūsā b. Ja‘far¹⁶³

現在は町の中になってしまっているが、以前は町外れだったとのこと。

エスラーム・シャフルの公共墓地の中。

現在は増改築がなされているが、オリジナルの廟はサファヴィー朝に遡ると考えられている。ガージャール朝時代にも増改築が行われている¹⁶⁴。

ホセイニーエ、エマームザーデ事務所などが作られ、礼拝の時刻になると周辺住民が礼拝に集まってくるほどの広さを持つが、ハラムはそれ以前の建物のままの広さで、狭い空間に大きな金属製のザリーが置かれている。

(95) Emānzāde Ṭāher (写真 251,252)

Eslām Shahr – Chahār-dānge - Shahrake Ṣan‘atī

墓地に囲まれた廟。その周囲は以前はバークだったとのこと。近年は工場などが建っている。

ザリーを持たない墓石が置かれている。

増改築を実行中。オリジナルはサファヴィー朝時代のものとされる。¹⁶⁵

(96) Emānzāde ‘Abbās (写真 253,254)

Eslām Shahr – Chahār-dānge

エスラーム・シャフルの墓地の中。

サファヴィー朝に遡ることができる小さな廟であったが、現在は取り壊され、新しい廟を作るための工事が行われている¹⁶⁶。

¹⁶³ 廟内のズィヤーラト・ナーメなどではこのようになっていたが、エマーム・アリーの子孫であるという説もある。(Sarvqadī, p.4)

¹⁶⁴ Sarvqadī, p.4. *Pazhūhesh-nāme*, p.14.

¹⁶⁵ *Pazhūhesh-nāme*, p.13.

¹⁶⁶ Sarvqadī, p.4. 2003年に取り壊しが行われ、工事が始まったとのことであるが、2007年現在も、基礎工事が終わり、鉄骨が組み上がったところまでしか工事が進行していない。

(97) Emānzāde Seyyed Reḏā (写真 255,256,257)

‘Alī ābāde Qājār

Emānzāde Seyyed Reḏā az Navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

村はずれの畑の中。周囲には墓地が広がる。

改修が行われている¹⁶⁷。

(98) Emānzāde Ebrāhīm (写真 258,259,260,261)

Rūstāye Neẓām ābād

Emānzāde Ebrāhīm b. Abī ‘Abdollah Moḥammad b. ‘Abdollah b. ‘Abdollah al-Ḥasan b. Ja‘far b. Ḥasan Mothannā b. Emām Ḥasan Mojtabā

村からは距離のある場所。広い墓地の中。周囲は現在は畑になっている。

最も古い部分はサファヴィー朝に遡る。その後、さまざまな時代に増改築が行われている。青いタイルのドーム、シャベスターンなどを持つ¹⁶⁸。

ハラムには緑色に塗られた木製のザリー。

(99) Emānzāde ‘Īsā (写真 262,263,264)

Rūstāye Vāvān

Emānzāde Abū al-Qāsem ‘Īsā b. Ḥasan b. Ja‘far b. Moḥammad b. ‘Alī b. Ḥasan Mothannā b. Emām Ḥasan Mojtabā

ヴァーヴァーンのはずれにあるヴァーヴァーンの墓地の中。

サファヴィー朝時代に建築されたものと考えられている。¹⁶⁹

ハラムとドームのみの小さな廟に近年増改築が行われ、事務所などと付け加えられた。ザリーは2002年に金属製のものに交換された。

(100) Emānzāde Esma‘īl (写真 265,266)

Rūstāye Chīchklū

エマームザーデ・イーサーとよく似た廟。サファヴィー朝時代に建築されたものと考えられている¹⁷⁰。

村から少し離れた墓地の中。

改修中。破損の激しい木製のザリー。ザリーの中には礼拝用のモフルや敷物などが礼拝のための形に置かれている。

鉄道施設によって、村から直接廟へ通じていた道が分断されてしまい、訪

¹⁶⁷ Sarvqadī, p.3. 2003年に訪れたときには改修が始まったところであったが、2007年に訪れた時にはほぼ工事は終わっていたものの、まだ一部の工事を行っていた。

¹⁶⁸ Sarvqadī, p.3.

¹⁶⁹ Pazhūhesh-nāme, p.13.

¹⁷⁰ Pazhūhesh-nāme, p.13.

れにくくなってしまったとのこと。

(101) Emānzāde Moḥammad (写真 267,268)

Rūstāye Eirīn

Emānzāde Moḥammad b. Emām Mūsā b. Ja'far

村はずれの墓地の中。村から向かってエマームザーデ・ザカリヤーの手前。

日干し煉瓦と泥でできたドームを持つ小さな廟。ガージャール朝時代の建築とされる¹⁷¹。

周囲を回るのがやっとなくらいに狭いハラムに置かれた木製のザリー。廟の外側にシャムダーン。

木曜日の午後のみ鍵を開けるとのこと。

(102) Emānzāde Zakariyā (写真 269,270,271,272)

Rūstāye Eirīn

(北緯 35 度 34 分 77 秒、東経 51 度 12 分 46 秒、標高 1094 メートル)

塀で囲まれた墓地の中。その周囲は、現在は鉄道施設が広がっている。

エマームザーデ・モハンマドとほとんど同じような形の廟。こちらの方が大きく、正面にファサードが作り付けられている。

廟は荒れており、ザリーや墓石などはなく、ドームにも穴が開いている。

2007 年には、改修が行われ、新しい木製のザリーが置かれていた。オリジナルはサファヴィー朝からガージャール朝時代にかけて建築されたものと考えられている¹⁷²。

(103) Emānzāde Ebrāhīm (写真 273,274)

Dākhere Forūdgāhe Bein ol-Melaliye Emām Khomeinī

(北緯 35 度 25 分 81 秒、東経 51 度 07 分 80 秒、標高 1026 メートル)

空港の敷地の中になってしまったため、人が訪れにくくなってしまった。

サファヴィー朝時代の建築¹⁷³。現在は改修が終わっているが、入り口の鍵はかかったままであり、廟内は布をかぶせた墓石が置かれているのみである。

(i) ロバーテ・キャリーム区 (Robāte Karīm)

テヘランとサーヴェを結ぶ街道沿いにある郡。東をレイ郡、南をマルキャズィー州の

¹⁷¹ Pazhūhesh-nāme, p.13.

¹⁷² Pazhūhesh-nāme, p.13.

¹⁷³ Sarvqadī, p.3.

サーヴェ、北をエスラーム・シャフル郡に囲まれ、イスラム以前からの長い歴史を持つ。

冬期にのみ降水が見られる半乾燥地帯ではあるが、アルボルズ山脈からガナートなどによって引かれた地下水や表流水により、古くから農業が行われていた。農業は小麦や野菜などの畑作が中心。

Robāt=隊商宿、宿の名の示す通り、サーヴェ-テヘラン街道の中継地としての重要性を持っていた。現在は地方から仕事を求めてテヘランへ移り住もうと地方から流入してくる人口の増加により、急速に人口の増加が進んでいる地域の一つとなっている。それに伴い、ロバーテ・キャリーム市が周辺の村を吸収しながら拡大している。

(104) Emāmzāde ‘Emād al-Dīn (写真 275,276)

Robāte Karīm – Khiyābāne Bakhshdārī

Emāmzāde ‘Emād b. ‘Emrān b. Emām Javād

ロバーテ・キャリームの街中。墓地の中。

廟は古いものを取り壊し、新しいものとなっている¹⁷⁴。

ロバーテ・キャリームで最も人が集まる聖所。

(105) Emāmzāde Moḥammad Taqī ma‘rūf be Emāmzāde Pā‘īn (写真 277)

Robāte Karīm – Bākhte Qadīm

az navādegāne Emām Moḥammad Bāqer

旧市街の中。以前のサーヴェ街道沿いにあたる。近くにカールヴァーンサララ(現文化財保護庁ロバーテ・キャリーム支部)。

ロバーテ・キャリームの墓地の中。

廟は古いものを取り壊し、近年に建てられたもの¹⁷⁵。

(106) Emāmzāde ‘Alī Aṣghar (写真 278,279)

Rūstāye Alārd

(北緯 35 度 30 分 57 秒、東経 51 度 04 分 07 秒、標高 1080 メートル)

村はずれの墓地の中。

廟はガージャール朝時代のもと考えられるが、破損が激しく、改修が行われた。¹⁷⁶ 現在は煉瓦で本来の壁を覆い、ドームも防水のための措置が取られている。

木曜日の午後のみ鍵を開けるとのことで、内部は確認できず。

¹⁷⁴ Sarvqadī, p.58.

¹⁷⁵ Sarvqadī, p.59.

¹⁷⁶ Sarvqadī, p.57.

(107) Peighambar Lūt (Ḥaḍrate Lūt) (写真 280)

Rūstāye Peighambar

(北緯 35 度 32 分 48 秒、東経 51 度 02 分 36 秒、標高 1108 メートル)

村はずれの墓地の中。

預言者ルートの墓と言われている。

廟はガージャール朝時代のもと考えられるが、礼拝のための部屋や事務室などが新しく加えられている¹⁷⁷。

内部には、金属製のザリーが置かれ、預言者ルートに関するクルアーンの節や言葉が壁一面に書かれている。

(108) Emāmzādegān Hādī va Mehdī (写真 281,282,283,284,285)

Rūstāye Yaḡe

(北緯 35 度 33 分 68 秒、東経 51 度 02 分 19 秒、標高 1110 メートル)

az navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

村はずれの墓地の中。

ガージャール朝時代のもとなされているが、ドームや壁面などの破損が進んでおり、改修作業が行われている¹⁷⁸。

古い木のサンドウグが置かれていたが(2003 年)、作業の進行に伴い外に出され、現在は金属のザリーが置かれている。

改修作業中も訪れる人は多く、作業に使うタイルなどを利用してろうそくを灯す人が絶えない。

(109) Emāmzāde Abū Ṭāleb (写真 286)

Rūstāye Āderān

Emāmzāde Abū Ṭāleb b. Moslem b. Esma‘īl b. Ḥasan b. ‘Alī b. Abī-Ṭāleb¹⁷⁹

村の外れ。

廟はガージャール朝時代のものであるが、近年の増改築も行われている¹⁸⁰。

木のザリーが置かれているが、木曜日の午後のみ扉を開けるとのことで内部の確認はできなかった。

廟の横手には同時代のもと思われる、現在は使われていない古い建物が見られる。

(110) Seyyed Latīf (写真 287)

¹⁷⁷ Sarvqadī, p.56.

¹⁷⁸ Sarvqadī, p.59.

¹⁷⁹ 廟の表示ではこのようになっているが、Sarvqadī によると、エマーム・ムーサーの子孫。(Sarvqadī, p.56)

¹⁸⁰ Sarvqadī, p.56.

Rūstāye Vajh ābād

(北緯 35 度 34 分 04 秒、東経 51 度 09 分 17 秒、標高 1094 メートル)

墓地の中。もともとは村の入り口付近に当たる場所。現在は町になっている通り沿い。

廟はごく最近に建てられた新しいもの。

木曜日の午後のみ正面の門が開けられるが、その時は、近隣の人で廟は一杯になるとのこと。

(111) Panj tan (写真 288,289,290,291,292)

Rūstāye Vajh ābād

(北緯 35 度 34 分 11 秒、東経 51 度 09 分 14 秒、標高 1094 メートル)

村の中央の広場にそびえる巨大なチェナール。幹は四本。そのうちの一本の幹をくりぬくようにしてシャムダーンが設けられている。

手の届く範囲の枝にはダヒールが大量に結ばれている。

樹齢は千年に及ぶと見なされている¹⁸¹。

(112) Emānzāde Ḥasan (写真 293)

Rūstāye Esmā'il ābād (Nasīm ābād)

村の墓地の中。ロバーテ・キャリーム街道から村に入る枝街道沿い。

50 年ほど前に立てられたという円形の廟に、その後、道路に面した前部にシャベスターンとエイヴァーンが作られた¹⁸²。

木曜日の午後のみ廟を開けるとのこと。

(113) Emānzāde Bāqer (写真 294)

Rūstāye Solṭān ābād

ロバーテ・キャリーム街道から村に入る枝街道の入り口付近。墓地の中。

ガージャール朝時代の建築が基本となっているが、その後部屋やエイヴァーンが増築されている¹⁸³。

金属製の新しいザリー。

(j) ラヴァーサーナート区 (**Lavāsānāt**)

テヘラン市の東北部に隣接する、アルボルズ山脈の南麓に広がる地域。北はマーザン

¹⁸¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.35.

¹⁸² Sarvqadī, p.57.

¹⁸³ Sarvqadī, p.56.

ダラーン州、西はテヘラン市、キャラジ郡、南はパークダシュト郡、東はダマーヴァン
ド郡と接する。

大きく東部のラヴァーサーネ・ボゾルグ(LavāsāneBozorg)とラヴァーサーネ・クー
ェク(Lavāsāne Kūchek)、西部のルーダバーレ・ガスラーン(Rūdbāre Qaşrān)に分けられる。

アルボルズの山麓に広がる地域であるために域内のほとんどが標高 1500 メートルを
超える。そのため、冬は寒く、夏は涼しい。冬に降る雪により水は豊富で、ラールとジ
ャーシルドの二つの河川と豊富な湧き水により、農業と牧畜が行われている。農業は
ギーラス(桜桃)、ザルドアールー(杏)、ホルー(桃)といった果樹栽培が主である。また
ゲルドゥー(胡桃)やバーダーム(アーモンド)など乾果類も多い。村は主に川沿いに点在
している。

ダシュテ・ラールを通してマーザンダラーンへ、メイグーン、ファシャムを通してチ
ャールース街道へと抜けることができる。

テヘランから比較的近距離にあることと、自然が豊かであることなどから、近年テヘ
ラン市民の別荘地として人気があり、果樹園バグが売られ、別荘が大変な勢いで建設
されている。このため、農業などに従事していた村の人口の一部は土地を売ってテヘラ
ンへ移住してしまい、過疎化が進みつつある。

ラヴァーサーン(Lavāsān)の聖所

(114) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 295,296,297)

Lavāsāne Kūchek - Bolvāre Emām Khomeinī - Kūche Emāmzāde ‘Abdollah
(Rūstāye Jā‘īj)

(北緯 35 度 49 分 7 秒、東経 51 度 37 分 44 秒、標高 1753 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollah b. Hosein b. Adnān (‘Adnān) b. Emām Mūsā

テヘランとラヴァーサーンを結ぶ街道沿い。小さな墓地の中。小路を挟ん
でマスジェドと向かい合っている。

1375S.H./1996-7 年と 1377S.H./1998-9 年に改修が行われた。

恐らく、7-8/13-14 世紀頃に建築されたものと考えられる¹⁸⁴。

以前は Jā‘īj 村であったが、現在は拡大した Lavāsāne Kūchek の一部となっ
ている。

(115) Emāmzāde Moḥammad Sho‘eib (写真 298)

Rūstāye Konde Soflā

(北緯 35 度 51 分 52 秒、東経 51 度 38 分 51 秒、標高 1992 メートル)

¹⁸⁴ Pāzouki Toroudī, Nāser, *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān, vol.1, Lavāsān va Rūdbāre Qaşrān*, Tehrān,
1382S.H./2003,p.216. *Pazhūhesh-nāme*, p.124.

Emānzāde Moḥammad Sho'eib b. Emām Mūsā

Rūstāye Konde Soflā と Rūstāye Konde Oliyā を結ぶ街道沿いの村はずれ。

丘の上にあるため街道から直接は見えない。

村の墓地の中。

建物の様式などからガージャール朝初期から中期の建築と考えられている

¹⁸⁵。

(116) Saqqā-khāne Abū al-Faḍl (写真 299,300,301,302)

Rūstāye Afje

(北緯 35 度 51 分 28 秒、東経 51 度 41 分 26 秒、標高 2056 メートル)

マスジェデ・エマーム・ハサン・アスギャリーの一角。現在はサッカーハーネとしての機能はなくなっている。マスジェドの一部ではあるが、別な入口から入ることができるようになっている。

アーイーネ・カーリーで飾られた小部屋。現在は窓になっている場所が以前は水くみ場になっていたとのこと。

部屋のあちこちにダヒールが結ばれており、ドアを詠んだり、ナズルの食事を配るために使われている。

サッカーハーネに続く入り口と小路を挟んだ正面に樹齢 400 年ほどのチェナールの大木がある。サッカーハーネのオリジナルの建物も 400 年ほど前に建てられたものと考えられている¹⁸⁶。

(117) Emānzāde Esma'īl (写真 303,304)

Rūstāye Barge Jahān

(北緯 35 度 50 分 30 秒、東経 51 度 43 分 56 秒、標高 1994 メートル)

Emānzāde Esma'īl b. Emām Mūsā

村の中の小高い場所にある墓地の中。

古い建物の破損に伴い、1370S.H./1991 年、1376S.H./1997 年に二度にわたる改築が行われ、現在は新しい廟になっている¹⁸⁷。

ズィヤーラトナーメによると、「Tāyefeye Eliyāsiyān のルードバールの入り口であるこの村で殉教した Shāhzāde Esma'īl を、Tāyefeye Bahādorīyān が夜、こっそりと村はずれのチェナールの木の下に埋葬した」とのこと。

オリジナルの廟は 6-7/13-14 世紀に遡ると考えられている¹⁸⁸。

¹⁸⁵ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.239. *Pazhūhesh-nāme*, p.125.

¹⁸⁶ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.184.

¹⁸⁷ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.155.

¹⁸⁸ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.155 *Pazhūhesh-nāme*, p.123.

- (118) Emānzāde Ebrāhīm (写真 305,306,307)
 Rūstāye Kalān (北緯 35 度 48 分 38 秒、東経 51 度 47 分 29 秒)
 以前はドームを持つ廟であったが、現在はマスジェドの一角になっている。
 パーティションのようなもので囲まれたそれほど広くないハラムに、木製のザリーが置かれている。
- (119) Khāje Solṭān Aḥmad (写真 308,309,310)
 Lavāsāne Bozorg
 (北緯 35 度 49 分 42 秒、東経 51 度 46 分 56 秒、標高 2237 メートル)
 Emānzāde Khāje Solṭān Aḥmad b. Emām Mūsā
 街道から入って最も奥にあたる墓地の中に建つ廟。
 本来の廟であったドームを持つ塔状の廟に新しく、マスジェドとホセイニーエが付け加えられている。
 木の古いザリーに金属のザリーがかぶせてある¹⁸⁹。
 碑文などから 7-8/13-14 世紀に建設されたものと見られる¹⁹⁰。
- (120) Emānzāde Mūsā¹⁹¹ (写真 311,312)
 Lavāsāne Bozorg
 (北緯 35 度 49 分 24 秒、東経 51 度 47 分、標高 2188 メートル)
 Emānzāde Mūsā b. Emām Mūsā
 村の南端。バークに囲まれた墓地の中。
 本来のドームは崩れてしまい、仮のドームがかぶせられている。内部は破損を修理し、大理石などを張っている。古いままの木製のザリーが置かれている。
 廟のオリジナルはティームール朝時代のもと考えられている¹⁹²。
 廟の敷地の入り口に樹齢 700 年ほどのチェナールの大木。
- (121) Emānzādegān Faḍl va Fāḍel (写真 315,316,317)
 Rūstāye Chahār Bāgh
 (北緯 35 度 48 分 17 秒、東経 51 度 45 分 55 秒、標高 1980 メートル)
 Emānzādegān Faḍl va Fāḍel b. ‘Abdollāh b. Emām Mūsā

¹⁸⁹ 木のザリーには 937/1530-31 年という年代が見られる。(Āthāre Tārīkhīye Shemīrān, p.160) *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.96-97.

¹⁹⁰ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.121. *Pazhūhesh-nāme*, p.123.

¹⁹¹ 文化財保護庁など一部の記録では Emānzāde Yūnes となっているが、地元の人々の呼び名やワクフ慈善庁の資料では Emānzāde Mūsā である。

¹⁹² *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.128. *Pazhūhesh-nāme*, p.123.

村からは少し離れた街道沿いに広がる墓地の中。

本来の廟の前方に新しく建て増しがされている。

古い碑文の入った木のザリー。

現在残る廟は 10-11/16-17 世紀のものに見なされているが、墓地などから採取された陶器片などからは、それ以前まで遡る可能性もあると考えられている

¹⁹³。

(122) Emānzāde Ṭayyeb (写真 316,317,318,319)

Rūstāye Rasanān

(北緯 35 度 48 分 11 秒、東経 51 度 45 分 23 秒、標高 1945 メートル)

Emānzāde Ṭayyeb b. Emām Mūsā (203/818-9 年没)

村はずれの小高くなった墓地の中。周囲はバーグ。

もともとの廟に L 字型に建て増しが行われている。

古い碑文(877 年ズィー・カアダ/1442 年 2-3 月)の入った木のサンドウグ。ズィヤーラトナーメなども古いものがいくつも置かれている。

周辺から採取された陶器片などから 7-8/13-14 世紀に遡ると考えられている

¹⁹⁴。

(123) Emānzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn (写真 320,321,322)

Rūstāye Nāṣer ābād

(北緯 35 度 52 分 12 秒、東経 51 度 37 分 1 秒、標高 2040 メートル)

村の北端。墓地の中。廟の裏は崖のように落ち込み、そこを川が流れている。

以前の建物は取り壊され、完全に新しいものとなっているが、オリジナルの廟は Emānzāde Seyyed Khosrou と同じ八角形の塔の形をしていたと言われている。これは 9-10/16-17 世紀のもと考えられる¹⁹⁵。

(124) Emānzāde Seyyed Khosrou (写真 323,324)

Rūstāye Nāṣer ābād

(北緯 35 度 52 分 42 秒、東経 51 度 37 分 50 秒、標高 2096 メートル)

Emānzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn から 2 キロメートルほど離れた山腹。

八角形の塔の形をした廟。

盗掘が激しく行われ、天井ドームや壁の崩落が進んでいる。

¹⁹³ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.141. *Pazhūhesh-nāme*, p.123.

¹⁹⁴ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.146. *Pazhūhesh-nāme*, p.123.

¹⁹⁵ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.262. *Pazhūhesh-nāme* では 8-9/14-15 世紀となっている。(p.125)

現在、個人所有ののバグの中にあり、村の人は存在は知っているがズィヤラトに訪れることはないとのこと。土地の所有者であるパーバーイー氏は、ホスローという名はイラン人のものであり、アラブ人の血筋であるエマームザーデの名前ではない故に、この塔はエマームザーデではない。サーサーン朝末期のものであると主張している。

文化財保護庁の専門家によると、建築様式などから 9-10/16-17 世紀ころのものと思われている。¹⁹⁶

(125) Emānzāde Moḥammad va ‘Abdollah (写真 325,326,327)

Rūstāye Būjān

(北緯 35 度 51 分 54 秒、東経 51 度 37 分 23 秒、標高 1985 メートル)

Emānzāde Moḥammad va ‘Abdollah b. Hādī b. Zein al-‘Ābedīn

村の中。村の墓地の中。

廟の前には樹齢 300 年ほどのチェナールの大木がそびえる。廟の南西側の壁に食い込むようにやはり樹齢 300 年ほどのタヌーマンドの木¹⁹⁷が生えている。オリジナルの廟はサファヴィー朝時代に遡ると考えられている¹⁹⁸。

(126) Emānzāde Faḍl ‘Alī (写真 328,329,330,331)

Rūstāye Nārān

(北緯 35 度 49 分 35 秒、東経 51 度 39 分 42 秒、標高 1809 メートル)

Emānzāde Faḍl ‘Alī b. Emām Mūsā

現在は青いタイルのドームを持つ小さな廟。1373S.H./1994 年の改修により、テキエ、ホセイニーエ、台所などが作り付けられ、廟も入り口がふさがれてしまった。現在はテキエ側からのみ廟に入ることができる。廟の内部もアーイーネ・カーリーなどで飾り付けられ、古い木のサンドゥグから金属の新しいものに換えられた。

古いサンドゥグは廟の外の一隅に残されている。そこに残された文面によると、Emānzāde Abū al-Faḍl となっている。

廟の扉の一つはガージャール時代のもの。

廟は建築様式などから 7-8/13-14 世紀のものと考えられている¹⁹⁹。

廟のすぐ傍に樹齢約 350 年のチェナールの大木²⁰⁰。本来の入り口はこのチェナールが立っている側にあった。

¹⁹⁶ *Āthāre Tārikhiye Shemtrān*, p.263. *Pazhūhesh-nāme* では、更に時代を遡れる可能性について指摘している。(p.125)

¹⁹⁷ この周辺ではここにしか見られない種類の木であるとのこと。

¹⁹⁸ *Āthāre Tārikhiye Shemtrān*, p.258. *Pazhūhesh-nāme*, p.125.

¹⁹⁹ *Āthāre Tārikhiye Shemtrān*, p.198.

²⁰⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.124.

ルードバーレ・ガスラーン(Rūdbāre Qaşrān)の聖所

(127) Emānzāde Nūr (写真 332,333)

Rūstāye Amāme Pāin

(北緯 35 度 53 分 56 秒、東経 51 度 34 分 51 秒、標高 2189 メートル)

Emānzāde Nūrollāh b. ‘Abdollāh b. Qāsem b. Shams al-Dīn b. Yūsef b. Moḥammad ‘Abbās b. Mahdī b. Nūrollāh b. Moḥsen b. Emam Mūsā

Rūstāye Amāme Bālā と Rūstāye Amāme Pāin を結ぶ街道沿い。村を見下ろすことのできる高い位置にある。

墓地の中。近年建設された新しい廟。

廟の北側に樹齢 400 年以上と言われる糸杉の大木があり²⁰¹、この糸杉の周辺や墓地などに盗掘の跡が見られる。

(128) Shāhzāde Ḥosein (写真 334,335,336)

Rūstāye Amāme Bālā

(北緯 35 度 54 分 21 秒、東経 51 度 35 分 18 秒、標高 2230 メートル)

Shāhzāde Ḥosein Mollaqaḥ Mīr ‘Alī b. Shams al-Dīn b. ‘Alī b. Moḥammad b. Hādī b. Mahdī b. Nourūzī b. Emam Mūsā

村の外れに近い三叉路。

1379-80S.H./2000-2 年にかけて改修が行われ、内装、外装共に新しくなっている。改修に伴い、敷地内には台所をはじめとする設備が整えられた。

オリジナルの廟は少なくとも 8-9/14-15 世紀に遡ると考えられている²⁰²。

(129) Emānzāde Ja‘far (写真 337,338,339,340)

Rūstāye Lālān

Emānzāde Ja‘far b. Faḍl b. ‘Alī b. Emam Reḍā

村から 2 時間ほど歩いた万年雪が残る山の中。

以前は石造りの小部屋があったそうだが、現在は完全に崩壊し、痕跡が残っているだけになっている。

岩にもたせかけたうす緑色の石がエマームザーデだという。

岩の上や壁の跡にろうそくの跡などが残り、人が頻繁に訪れていることが窺える。

エマームザーデの近くにある泉の水にシャファーがあるということで、雪

²⁰¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²⁰² *Sarvqadī*, p.328. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

が深い冬でも水を汲みに訪れる人や、村の人に水の運搬を依頼する信者がいるという。

Lālān 村に向かう街道沿いにある Emāmzāde ‘Abdollāh とは兄弟。

(130) Emāmzāde ‘Abdollāh (写真 341,342)

Rūstāye Lālān

(北緯 35 度 58 分 50 秒、東経 51 度 34 分 54 秒、標高 2365 メートル)

Emāmzāde ‘Abdollāh b. Faql b. ‘Alī b. Emam Reḡā

村へ向かう街道沿いの川岸。

現在は礼拝用の空間を兼ねた大きな建物になっているが、オリジナルは墓石・ザリーを囲んでいる部分だったとのこと。

オリジナルの廟は 9-10/15-16 世紀のものと考えられている²⁰³。

Emāmzāde Ja‘far とは兄弟とのこと。

(131) Emāmzāde Ebrāhīm (写真 343)

Rūstāye Lālān

(北緯 35 度 59 分 36 秒、東経 51 度 34 分 43 秒、標高 2461 メートル)

村の中心のメイダーンの近く。村のホセイニーエとして利用されている。

木曜日の午後になると女性たちが集まってくる。

(132) Emāmzāde Ebrāhīm (写真 344,345,346,347)

Rūstāye Āb-nīk

(北緯 35 度 59 分 23 秒、東経 51 度 36 分 7 秒、標高 2350 メートル)

Emāmzāde Ebrāhīm b. ‘Alī b. Emam Mūsā²⁰⁴

村の奥まった小高い場所。

イラン暦 1376 年と 80 年(1997 年と 2000 年)に改修が行われた。

村を挟んだ丘の上にある Emāmzāde Ṭayyeb と Emāmzāde Mūsā とは親子であるとのこと。バグダードからレイを経由してここへ辿り着き、殺されたと伝えられている。

エマームザーデの現在の建物は 8-9/14-15 世紀のものと考えられているが、オリジナルの建築は 5-6/11-12 世紀に遡るとされている²⁰⁵。

(133) Emāmzāde Ṭayyeb (写真 348,349,350)

²⁰³ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.164. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²⁰⁴ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, pp.358-9.

²⁰⁵ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.359. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

Rüstāye Āb-nīk

(北緯 35 度 59 分 16 秒、東経 51 度 36 分 56 秒、標高 2524 メートル)

Emānzāde Ṭayyeb b. Ebrāhīm b. ‘Alī b. Emam Mūsā

村の前にある丘の上に並ぶ二つのエマームザーデの一つ。

二段になったドームを持つ小さな廟。

廟の前にあるワクフ慈善庁によって置かれた看板には Emānzāde Ṭayyeb b. Ṭāher となっているが、村の人によるとこれは間違いで上の血統が正しい²⁰⁶。

1383S.H./2004 年に改修が行われたが、オリジナルの形はそのまま残されている。

この廟は 7-8/13-14 世紀に遡ると考えられ、ガージャール朝初期に改修が行われている²⁰⁷。

(134) Emānzāde Mūsā (写真 351,352,353,354,355)

Rüstāye Āb-nīk

(北緯 35 度 59 分 15 秒、東経 51 度 36 分 56 秒、標高 2542 メートル)

Emānzāde Mūsā b. Ebrāhīm b. ‘Alī b. Emam Mūsā

Emānzāde Ṭayyeb よりも少し高いところにある廟。円錐型ドームの方。

廟の前にあるワクフ慈善庁による看板には Emānzāde Mūsā b. Ja‘far となっているが、村の人によると上の血統が正しい²⁰⁸。

1383S.H./2004 年に改修が行われた。

オリジナルの廟は 7-8/13-14 世紀に遡ると考えられ、ガージャール朝初期に改修が行われていると見られる²⁰⁹。

(135) Shāh Cherāgh (写真 356,357,358)

Rüstāye Garm- ābdar

(北緯 35 度 59 分 29 秒、東経 51 度 37 分 53 秒、標高 2512 メートル)

村はずれの畑の中。廟は既に崩れてしまい、壁の一部などしか残っていない。村の人も若い人は場所をはっきりと知らない人も多い。

アラムやいくつかのランプが置かれており、ダヒールなども結ばれているが新しいものは少ない。

恐らくザンド朝からガージャール朝時代のものと思われる²¹⁰。

²⁰⁶ cf. *Āthāre Tārīkhīye Shemtrān*, p.362-3.

²⁰⁷ *Āthāre Tārīkhīye Shemtrān*, p.363. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²⁰⁸ cf. *Āthāre Tārīkhīye Shemtrān*, p.365.

²⁰⁹ *Āthāre Tārīkhīye Shemtrān*, p.366. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²¹⁰ *Āthāre Tārīkhīye Shemtrān*, p.372. 廟の周辺において採集された陶片などからはティームール朝時代のものも見つかっているとのことである。(p.373)

Pazhūhesh-nāme では廟の建築年代をティームール朝時代としている。(p.126)

(136) Ziyāratgāhe Pīr Javvār (写真 359,360)

Rūstāye Garm- ābdar

(北緯 35 度 58 分 44 秒、東経 51 度 38 分 55 秒、標高 2526 メートル)

村から 15 分ほど歩いた川岸の窪地。水が湧いている。

ここにあったとされる建物は壊れてしまいほぼ全く残っていないが、ガー
ジャー朝時代の建築だったと考えられている²¹¹。

シャフレ・レイに埋葬されている Shāh ‘Abd al-‘Azīm に使っていた gholām
であったと伝えられている。シャフレ・レイからこの地を訪れたときに病を得
て亡くなり、ここに葬られたと言われている²¹²。

(137) Emāmzāde Seyyed Mīr Salīm (写真 361,362,363)

Meigūn (北緯 35 度 57 分 27 秒、東経 51 度 29 分 30 秒、標高 2707 メートル)

Emāmzāde Seyyed Mīr Salīm b. Aḥmad b. Ḥasan b. Emām Ḥasan b. Abī-Ṭāleb
165/781-2 年没。

メイグーンの町の中。周囲には墓地が広がっている。廟の裏手には川。

近年、改修が行われており、廟は全く新しいものになってしまっている。

敷地内にトイレ、ヴズー・ハーネ、図書館などを建設中。

オリジナルの廟は 9-10/15-16 世紀に遡ると考えられる²¹³。

(138) Emāmzāde Moḥammad (写真 364,365,366)

Rūstāye Shemshak Pān

(北緯 36 度 00 分 32 秒、東経 51 度 29 分 21 秒、標高 2531 メートル)

Emāmzāde Moḥammad b. ‘Abdollah b. Emām ‘Alī-Naqī b. Emām ‘Alī-Taqī

村の中にあり、二度にわたる改修と増築で、現在はホセイニーエのよう
になっている。本来の廟は現在も残る八角形の囲いの部分だったとのこと。この
古い廟は恐らく 9-10/15-16 世紀のものと考えられている²¹⁴。

改修に伴い、ザリーも金属製の新しいものに取り替えられている。

(139) Emāmzāde Esma‘īl (写真 367,368,369)

Rūstāye Shemshak Bālā

(北緯 36 度 00 分 36 秒、東経 51 度 29 分 16 秒、標高 2580 メートル)

²¹¹ *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²¹² *Āthāre Tārīkhiye Shemrān*, p.375.

²¹³ Sarvqādī, p.162. *Pazhūhesh-nāme*, p.127.

²¹⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.127.

Emānzāde Esma‘īl b. Faḍl b. ‘Alī b. Mūsā al-Reḍā²¹⁵

二つのシムシャク村の間。現在はヴィラが立ち並ぶ地区の外れ。

丘の中腹に貼り付くようにして立っている。周囲には古い墓地が見られるが、新しいものはほとんどない。

ヴィラの増加に伴い村の人口が減り、廟を訪れる人が減っている。現在は、壁が一部落ちており、木製のザリーも壊れている。

現在残る廟はガージャール末期のものに見なされるが、周辺から採取された陶片などの分析から、少なくともサファヴィー朝期まで遡ることができると考えられている²¹⁶。

(140) Emānzāde Maḥmūd (写真 370,271,372)

Rūstāye Darbandsar

(北緯 36 度 1 分 18 秒、東経 51 度 27 分 49 秒、標高 2712 メートル)

Emānzāde Maḥmūd b. ‘Abdollah b. Emām ‘Alī-Naqī

村はずれの畑の中にある丘の上。周囲は墓地。

建物やザリーは新しいものになっている。

廟に台所などが作り付けられ、泊まり込み用の布団なども多く用意されている。ザリーのあるハラムからこれらの部屋へはつながっておらず、直接出入りすることはできない。

(141) Emānzāde ‘Alī Akbar (写真 373,374,375)

Rūstāye Īgol

(北緯 35 度 54 分 44 秒、東経 51 度 29 分 9 秒、標高 2062 メートル)

Emānzāde ‘Alī Akbar b. Ebrāhīm b. Zein al-‘Ābedīn

村の中の小さな廟。民家が建ち並ぶ中に民家と同じ顔で並んでいる。

廟内には特にザリーやサンドウグ、墓石は置かれていない。金属製の台にイマームなどの絵やアッバースの手（スンニー派圏ではファーティマの手）などが飾られ、そこにダヒールが結ばれている²¹⁷。

村の人の話によると、エマームザーデ・アリー・アクバルは敵に追われ、各地を転々とし、五番目の在所であったこの村で殺され、シーア派信徒の一人の手によってこの場所に葬られたとのこと。

(142) Qabrestāne Rūstāye Bāghe-gol (写真 376,377)

²¹⁵ Sarvqadī, p.157

²¹⁶ Āthāre Tārīkhīye Shemīrān, p.402. cf. Sarvqadī, p.157. Pazhūhesh-nāme, p.127.

²¹⁷ 1385S.H./2007 年に改修が行われ、その際に墓石が置かれた。

Rūstāye Bāgh-gol

(北緯 35 度 54 分 35 秒、東経 51 度 30 分 06 秒、標高 2015 メートル)

村はずれの墓地の中。山の斜面に広がる墓地の中に一本のニレの木が立っており、村の人々の崇敬の対象となっている²¹⁸。この木の周辺で光が目撃されるなどして木への信仰が始まり、その後、村人が木の周辺に葬られるようになった²¹⁹。

2007 年に訪れたときにはこの木は枯れてしまっており、葉を付けていなかったが、まだ新しいダヒールが多数結ばれていた。

(143) Emāmzādegān Seyyed Ṭāher va Seyyed Zāhed (写真 378)

Shokrāb

(北緯 35 度 55 分 43 秒、東経 51 度 25 分 33 秒、標高 2422 メートル)

Emāmzādegān Seyyed Ṭāher va Seyyed Zāhed al-Molaqqab Seyyed Amīr b. Seyyed Zein al-ʿĀbedīn b. Seyyed Ḥasan b. Zeid b. ʿAlī b. Ḥosein b. ʿAlī b. Abī-Ṭāleb

村から 4 キロメートルほど山の中。水が湧くチェシュメがあり、廟の周囲にはバグが広がっている。

廟の付属施設として巡礼宿などが作られており、テヘランから来る人々の宿泊に利用されている。その他にも敷地内にテントを張ってピクニックを兼ねて滞在する人も多い。

オリジナルの廟にナマーズハーネなどが建て増しされている。

廟は改修が行われ、ザリーも新しい金属製のものに取り替えられている。

オリジナル部分はサファヴィー朝中期のものと考えられている²²⁰。

(144) Ziyāratgāhe Kharābeye Pīr (写真 379)

Shokrāb

Emāmzādegān Seyyed Ṭāher va Seyyed Zāhed の傍ら。

手入れはされているが、Emāmzādegān Seyyed Ṭāher va Seyyed Zāhed のように飾り立てられてはおらず、墓石も剥き出しのままになっている。

8-9/14-15 世紀に遡るものと考えられている²²¹。

(145) Emāmzāde Moḥammad Bāqer (写真 380,381,382)

Rūstāye Rūdak

(北緯 35 度 50 分 49 秒、東経 51 度 32 分 51 秒、標高 1869 メートル)

²¹⁸ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, pp.300-301.

²¹⁹ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.301.

²²⁰ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.312. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

²²¹ *Āthāre Tārīkhīye Shemīrān*, p.316. *Pazhūhesh-nāme*, p.126.

Emānzāde Moḥammad Bāqer az Navādegāne Emām Mūsā

山の斜面に貼り付いた村の一番奥。

本来の廟の周囲にナマーズハーネなどの建物が付け加えられ、敷地内にホセイニーエや台所なども創られている。

廟の外側に 1374S.H./1995-6 に山から落ちてきた岩が食い込んでいるが、取り除く予定は特にないとのこと。

棒の増改築と同時にザリーは金属製の新しいものに取り替えられた。

入り口脇にファトフアリー・シャー時代の大理石に彫られた碑文が据え付けられている。

廟の下から水が湧き、水路を流れて村へと流れている。この水についてはエマームザーデが湧き出させたものであるとの伝説が残されている。

オリジナルの廟は 5-6/11-12 世紀のもと考えられている。その後、ファトフアリー・シャー時代に改修され、1375S.H./1996-7 年にも修理が行われた²²²。

(146) **Emānzāde Panj tan** (写真 383,384)

Dashte Lār

(北緯 35 度 56 分 36 秒、東経 51 度 47 分 22 秒、標高 2655 メートル)

現在はラール自然保護区の中。ラール川沿い。

古い建物は壊れてしまったため、近年、新しい建物に替えたとのこと。

訪れる人はそれなりにいるとのもので、ズィヤーラトの人々のために食器などが用意され、ダヒールも新しいものが数多く結ばれている。

周辺には古い墓石が見られ、継続して墓地として使われていたことが分かる。採取された陶器片などから 7-8/13-14 世紀頃まで遡ると考えられる²²³。

(147) **Naqqār-khāne** (写真 385,386,387)

Dashte Lār

(北緯 35 度 59 分 24 秒、東経 51 度 46 分 4 秒、標高 2691 メートル)

ラール自然保護区の中。Emānzāde Panj tan からマーザンダラーン方面に北上。

500 メートルほど離れたところにカールヴァーンサラール。

12 本の柳と 2 本のポプラの木が並んでいる。現在はほとんど枯れてしまっているが、以前は泉が湧いていたとのこと。

二つの部屋のある石造りの建物であるが、天井は落ち、現在は羊小屋とし

²²² *Āthāre Tārkhīye Shemtrān*, p.283. *Pazhūhesh-nāme*, p.125.

²²³ *Āthāre Tārkhīye Shemtrān*, p.83. *Pazhūhesh-nāme*, p.122.

て使われている。9-10/15-16 世紀に建築されたものと考えられている²²⁴。

周辺には古い墓の混じった墓地跡が見られる。この墓地は、周辺から採取された陶器片などからイスラーム初期まで遡ると考えられる²²⁵。

ダマーヴァンド街道沿いの聖所

(148) Emāmzāde Ṭayyeb (写真 388,389)

Rūstāye Kamard

Emāmzāde Ṭayyeb b. Ṭāher az Navādegāne Emām Zein al-‘Ābedīn

村の一番奥の突き当たり。廟の裏の崖下には川が流れている。

周囲に墓地は広がっているが、現在の村の墓地は別などところにある。

チェナールの大木の下に隠れて廟のドームなどは見えにくくなっている。

血統についてはいくつかの説があるが、村の人々は上のように信じているとのこと。

(149) Emāmzāde ‘Abdollāh (写真 390,391)

Jādde Damāvand - Hame Sīn – Torkaman-deh

Emāmzāde ‘Abdollāh b. ‘Alī b. ‘Obeidollāh tholthi b. Abū al-Ḥasan ‘Alī b. ‘Obeidollāh thānī b. Abū al-Ḥasan ‘Alī b. ‘Obeidollāh b. Ḥosein al- Aṣghar b. Emām ‘Alī b. al-Ḥosein Zein al-‘Ābedīn

街道から南へ分かれた枝道を行った村の中。

小さな廟であるが、村の外からも多くの人が訪れているとのこと、建物はきれいに改修がされている。

特にザリーは設けられておらず、大きな墓石が廟の中央に置かれている。

墓地は別にあるとのこと、廟の周囲に墓地は見られない。

(k) ダマーヴァンド区 (Damāvand)

イラン最高峰ダマーヴァンド山(5678メートル)の南麓に広がる地域。北はマーザンダラーン州、西はラヴァーサーン郡、南はセムナーン州、パークダシュト郡、東はフィールーズクーフ郡と接する。

テヘランからマーザンダラーン州へ抜けるハラズ街道が通り、テヘラン-マーザンダラーン間の交通の中継点の一つとして古くから栄えた。

アルボルズ南麓の山裾に広がる地域であり、セムナーン州と接する南部を除けば、冬

²²⁴ Pazhūhesh-nāme, p.122.

²²⁵ Sarvqadī, p.90.

は寒く夏は涼しい気候を持つ。アルボルズ山脈に降る雪に源を発する地下水が豊富である。

クルミをはじめとする乾果と林檎をはじめとする果樹栽培、畜産業が主な産業である。畜産業では、テヘラン州南部、ヴァラーミン郡やシャフレ・レイ郡などで羊を飼う人々が夏営地としてやって来る。

近年、テヘラン市内へ移り住む人が増える一方で、果樹園で働くアフガン人労働者が村の人口の多くを占めるようになってきている。

(150) Emānzādegān Haft tan va Hasht tan (写真 392,393,394,395,396)

Damāvand – Maḥalle Darvīsh

(北緯 35 度 43 分 26 秒、東経 52 度 4 分 11 秒、標高 1995 メートル)

現在のダマーヴァンド市のメインストリートから一本裏に入った旧市街の中。

銀色のドームの方がハフト・タン、茶色の方がハシュト・タンとのこと²²⁶。双方とも近年改修が行われた。

(151) Emānzādegān ‘Abdollah va Khalīlollah²²⁷ (写真 397,398,399,400,401)

Damāvand – Janbe Dādgostārī

(北緯 35 度 43 分 12 秒、東経 52 度 4 分 13 秒、標高 2002 メートル)

円錐ドームを持つ楕円形の塔。周囲よりも少し高くなった丘の上。建築様式などから 6-7/12-13 世紀のものと考えられる。塔に付属した部屋はガージャール朝期に付け加えられた²²⁸。

木製のサンドウーグはサファヴィー朝期のもの²²⁹。

現在は、毎木曜日の午後 3 時以降だけ開けられる。

(152) Ziyāratgāhe Ma‘šūmzāde Zein al-‘Ābedīn (写真 402,403)

Damāvand – Maḥalle Darvīsh

²²⁶ Pāzoukī は、銀色のドームを持つ北側の建物が Emānzādegān Haft tan va Hasht tan であり、南側の茶色の屋根の建物は Emānzāde Haftād tan であるとしているが(Pāzoukī Ṭoroudī, Nāsher, *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, Tehrān, 1381 S.H./2001, p.77-81. cf.Sarvqadī) 地元の人々の話によると、Emānzāde Haftād tan などというものは存在せず、この建物は Emānzāde Hasht tan だとのことである。*Pazhūhesh-nāme* では Emānzāde Haftād tan の正確な位置が書かれていないため、Emānzādegān Haft tan va Hasht tan と同じ敷地内にあるのか、同じ地区にあるということなのか確認ができない。(p.91)

²²⁷ Mostafavī によると、土地の人々は Chehel tan と呼んでいるとされている。(p.264)

²²⁸ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.74. *Pazhūhesh-nāme*, p.91. *Banā-hāye Āramgāhī*, p.184.

²²⁹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.74

Emānzādegān ‘Abdollāh va ‘Obeidollāh から 50 メートルほど南。
何もない小部屋一つだけの小さな廟。由来などは全く伝わっていない²³⁰。
普段は鍵がかけられているが、鍵は廟の並びにある食料雑貨屋が預かっ
ている。

(153) Emānzādegān ‘Abdollāh va ‘Obeidollāh (写真 404,405,406,407)

Damāvand – Maḥalle Darvīsh

(北緯 35 度 43 分 31 秒、東経 52 度 4 分 12 秒、標高 1994 メートル)

青いドームを持つ塔。

建築様式などからセルジューク朝末期からモンゴル期初期のものと考えら
れている²³¹。

墓石とそれを覆うザリーは塔内部の中央ではなく、南側の壁面に寄せて作
られている。ここには窓が作られ、外側からも窓の格子にダヒールが結ばれて
いる。

現在、木曜日の午後 3 時以降のみ扉が開けられている。

廟の前には樹齢 400 年ほどのチェナールの大木が立っている。

廟のまわりにはマスジェド、ホセイニーエなどが作られ、ダマーヴァンド
市の一大宗教コンプレックスとなっている。

(154) Maqbare Sheikh ‘Erāqī (写真 408)

Damāvand – Chālekā

(北緯 35 度 43 分 21 秒、東経 52 度 03 分 51 秒、標高 2010 メートル)

Seyyed Abū al-Ḥasan Jalālī Mūsavī ma‘rūf be Sheikh ‘Erāqī

それ以前の建物を壊し、1993 年に現在の建物が建てられた²³²。

現在は木曜日の午後のみ扉が開けられる。

(155) Emānzāde Shams al-Dīn Moḥammad (写真 409,410)

Damāvand – Farāme

(北緯 35 度 42 分 51 秒、東経 52 度 3 分 59 秒、標高 1974 メートル)

az navādegāne Emānzāde Zeid b. Ḥasan b. Emām ‘Alī

近くを川が流れている。

樹齢 350 年を超えるという二本のチェナールに傍らにあった廟。

新しい建物にするために完全に古い建物を壊してしまった。

²³⁰ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.91-92.

²³¹ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, p.93. *Pazhūhesh-nāme*, p.91. *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.189-190.

²³² *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, p.116.

以前の建物は、シャジャレ・ナーメなどから6-7/13-14世紀に遡ると考えられている²³³。

木曜日の午後のみ開けられる。

(156) Sheikh Shams al-Dīn ma'rūf be Se tan Sheikh²³⁴ (写真 411,412)

Damāvand – Meidāne Qods

(北緯 35 度 34 分 26 秒、東経 52 度 03 分 47 秒、標高 2015 メートル)

ダマーヴァンドから、ハラズ街道へと続く街道の出口となっているメイダーンに面している。道路面よりも一段高くなった墓地の中。

建物は最近建てられた新しいもの。ザリーの置かれたハラムと、礼拝用の部屋が設けられている。

木曜日の午後のみ扉が開かれるとのこと。

(157) Emāmzāde Solṭān Moḥammad (写真 413,414)

Jilārd

(北緯 35 度 41 分 42 秒、東経 52 度 02 分 42 秒、標高 1960 メートル)

ダマーヴァンド市へ向かう街道脇の丘の上。広い墓地の中。

建物は近年建築された新しいもの。六角形の塔の部分がエマームザーデで、他の部分はホセイニーエとなっている。

木曜日以外は鍵がかかっていることが多い。

(158) Boq'ē Sheikh Sharif Jilārdī (Sheikh Baghdādī) (写真 415,416,417,418)

Jilārd

(北緯 35 度 41 分 25 秒、東経 52 度 02 分 14 秒、標高 1951 メートル)

ダマーヴァンド市へ向かう街道沿いの丘の上。Emāmzāde Solṭān Moḥammad と街道を挟んで近い距離にある。

日干し煉瓦と泥で作られた廟。現在は廟内外における盗掘が激しく、ほとんど崩壊寸前となっている。人が訪れている様子はほとんど見られない。

周囲には現在は使われていない古い墓地。

廟はガージャール朝時代のものと見なされているが、周囲の墓の中には、イスラーム時代初期のものも見られる²³⁵。

²³³ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.100.

²³⁴ 他に、Abū Sa'īd、Kheirollāh と呼ばれることもあるという。また、Kheirollāh、Shams al-Dīn、Esmā'īl の三人で Se tan であると言う人もいる。(*Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.118) *Pazhūhesh-nāme* には Kheirollāh の名が加えられている。

²³⁵ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.142. *Pazhūhesh-nāme* によると、ガージャール朝時代初期。(p.92)

(159) Emānzāde Moḥammad (写真 419,420)

Rūstāye Shalambe

(北緯 35 度 40 秒 46 秒、東経 52 度 02 分 44 秒、標高 1870 メートル)

テヘラン-ダマーヴァンド街道沿いの斜面に広がる墓地の中。墓地の一部は、1979 年の革命後、街道の拡張工事などで掘り返されてしまった。

円錐ドームの下の狭いハラムはザリーでいっぱいになってしまう程度の大きさ。この部分が最も古く、様式などから 6-7/12-13 世紀の建築と考えられている。その周囲に L 字型に礼拝などに用いるための部屋などが増築されている²³⁶。

木曜日にはテヘランからも人が訪れるとのこと。

(160) Ziyāratgāhe Hādī va Mahdī (写真 421)

Rūstāye Chenār-‘Arabhā

村のマスジェドの中にある二本に分かれた大きなチェナールの木。樹齢およそ 300 年以上²³⁷。

木の下にハーディーとマフディーの二人の若者が埋葬されていると信じられている。村人の一人が見た夢の中に現れた人物が、ここにエマームザーデがある故、それを信仰するように告げたという。その夢に従い、その夢によって告げられた場所にマスジェドを建てた。

チェナールの傍らには水が湧いていたが、現在は地下水位が下がってしまい、干上がってしまったとのこと。

アーシューラーの日には木の一部から血が流れると言われている。

(161) Emānzāde ‘Abdollāh (写真 422,423,424,425,426)

Rūstāye ‘Eine-varzān

村の中に建つ廟。

樹齢 500 年と言われるチェナールの巨木の下に白い三角屋根の廟。廟はモンゴル時代末期に遡るとされ²³⁸、内部のタイルもモンゴル時代のものが残る。

885/1480-1 年の日付を持つ木のサンドウグが置かれている²³⁹。

廟の下から水が湧き出しており、村の人が汲みにやってくる。

ホセイニーエが近年廟の周囲に作られた。

²³⁶ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.152-155. *Pazhūhesh-nāme*, p.93.

²³⁷ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, p.283. *Pazhūhesh-nāme*, p.97.

²³⁸ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.203-206. *Pazhūhesh-nāme* では 6/12 世紀まで遡る可能性も指摘されている。(p.94) *Banā-hāye Ārangāhi*, pp.184-185.

²³⁹ *Mostafavi*, p.264.

(162) Derakhte Saqqeze Moqaddas (写真 427,428)

Rüstāye 'Eine-varzān

村の背後の山腹に生えているサッケズの木。近隣に同じ木は見あたらず、ここにしかないものという。このサッケズの木の上に奥にもう一本聖樹があるとのことだったが、見つけることができなかった。

昔は村の人々がダヒールを結んでいたが、最近を訪れる人が減っているとのこと。

(163) Ghā'eb (写真 429,430,431)

Rüstāye 'Eine-varzān

村の墓地の外れ。ゼレシュクの茂みの傍ら。

昔は何か願い事のある人がここを訪れ、そこに置かれた石を使った占いを行っていたが、現在は行われていない。

現在は、村の人が置いたアラムに沢山のダヒールが結ばれている。

墓地の中ではあるが、エマームザーデをはじめとするバラキヤトを持つ人物が埋葬されているということはなく、どうしてこの場所が神聖な場所と見なされるようになったかははっきりしない。しかし、ここが聖所と見なされ、人が訪れるようになったのはそれほど昔のことではないとのことであった。

(164) Emāmzādegān Fakhr al-Dīn va Seyyed Jalāl al-Dīn (写真 432,433,434)

Rüstāye Sārān

(北緯 35 度 30 分 32 秒、東経 52 度 10 分 17 秒、標高 1610 メートル)

az navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

二人の兄弟とされる。街道から村に下りる道からは目に付かないが、村の入り口の道路脇に立っている。

周囲には古い墓がいくつか見られるが、現在の村の墓地は道路を挟んだ向かい側。

建築の様式などから、8/14 世紀の建築と考えられる²⁴⁰。ザリーは持たず、緑の布をかけた墓石が二つ並んでいる。

(165) Emāmzāde Zein al-'Ābedīn (写真 435,436)

Rüstāye Kūhān

(北緯 35 度 35 分 06 秒、東経 52 度 08 分 58 秒、標高 1849 メートル)

Emāmzāde Zein al-'Ābedīn b. 'Aqīl²⁴¹

²⁴⁰ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp. 407-410. *Pazhūhesh-nāme*, p.100.

²⁴¹ 血統については明らかではないが、土地の人々はエマーム・アリーの兄弟であるアギールの子供だと見

村の入り口脇。墓地の中。

現在の建物はほとんど新しいものになっているが、建築様式などから、オリジナルは 8-9/14-15 世紀に遡ると考えられている²⁴²。

シーア派初代エマーム・アリーの甥と言われている。

木曜日の午後のみ廟は開けられる。

(166) Bībi Khadije (写真 437,438,439)

Rūstāye Kūhān – 200 metrīye sharqīye Emānzāde Zein al-‘Ābedīn

道路脇の小高くなった場所。

現在は完全に廃墟となっている。一部屋だけの小さな廟。

革命前までは人も多く訪れ、地域の人々の信仰の対象となっていたとのこと。しかし、廟周辺の人々によると、ワクフ慈善庁が宝探しのために掘り返し、荒らしてしまったという。

廟の周辺には古い墓が多く見られる。現在残る廟はおよそ 150 年前に建てられたものと考えられるが、墓地の墓の状態から、それ以前からここに廟があった可能性が高い²⁴³。

(167) Emānzāde Panj tan (写真 440,441,442)

Rūstāye Bīdak

(北緯 35 度 36 分 01 秒、東経 52 度 08 分 57 秒、標高 1904 メートル)

Emānzādegāne ‘Oun, Ṭāher, Ja‘far, Yūnes va Ṭayyeb az navādegāne Emām Mūsā

村の奥の丘の上。

以前の建物が崩壊してしまったため取り壊し(2003 年)、新しい廟を建てた。2006 年に完成。

廟の中には緑色の布をかけた正方形に近い墓石が置かれている。

取り壊される前の建物はガージャール朝初期から中期のものであるが、周辺の陶片などからサファヴィー朝まで遡ることができると推測されている²⁴⁴。

(168) Emānzāde ‘Abdollāh va Seyyed Esmā‘il ma‘rūf be Mo‘tam Ṭāher (写真 443,444,445,446,447)

Rūstāye Ahrān

(北緯 35 度 36 分 28 秒、東経 52 度 08 分 48 秒、標高 1923 メートル)

なしているとのこと。(Āthāre Tārikhiye Damāvand, p.369)

²⁴² Āthāre Tārikhiye Damāvand, pp. 368-371. Pazhūhesh-nāme, p.99.

²⁴³ Āthāre Tārikhiye Damāvand, pp.371-374. Pazhūhesh-nāme, p.99.

²⁴⁴ Āthāre Tārikhiye Damāvand, pp.356-358. Pazhūhesh-nāme はガージャール朝時代初期から中期とのみ。(p.98)

Mo'tam Ṭāher b. 'Abdollaḥ Ṭāher b. Moḥammad b. Ḥasan b. Ḥosein b. 'Isā b. Yahyā Ḥosein Dhālād Mo'āben Zeid al-Shahīd b. Emām 'Alī b. al-Ḥosein

街道から入ってきて村の一番奥。マスジェドの向かい。

2003年には壁が崩れるなど痛みが目立っていたが、2007年に訪れたときには改修が行われていた。

廟の中には古い木のサンドゥーグ。入り口に近い方がエスマーイール、奥がアブドッラー(Mo'tam Ṭāher)。表面に1057/1647-8年という年代が見られる。

670/1271-2年に廟を建築した人物の名が明らかであることから、6-7/12-3世紀に建築されたと考えられる²⁴⁵。

(169) Emānzāde Qāsem (写真 448,449)

Rūstāye Tāskīn

(北緯 35 度 36 分 37 秒、東経 52 度 08 分 30 秒、標高 1898 メートル)

村の一番端。隣村の Emānzāde 'Abdollaḥ va Seyyed Esma'īl から村に続く道をたどってきて村に入ってきてすぐの場所に建つ。

村の墓地は別な場所にあるが、廟の周囲には何基かの墓が見られる。

近年改修が行われ、礼拝用の部屋が付け足された。ハラムには木の古いサンドゥーグが置かれている。

廟の建築年代は、様式などから 6-7/12-3 世紀に遡ると考えられる²⁴⁶。

(170) Saqqā-khāne Ḥaḍrate 'Abbās (写真 450,451,452,453)

Rūstāye Vādān

(北緯 35 度 35 分 38 秒、東経 52 度 08 分 35 秒、標高 1851 メートル)

村の中。建物の脇を小川が流れている。

以前は廟内に泉があり、その水は非常にシャファアがあったとのこと。特に眼病には良く効いていたとの伝えられている。ところが、20年ほど前に洪水があり、その時に泉が完全に見えなくなってしまった。泉がなくなってしまったからは、サッカーハーネとしては機能していない²⁴⁷。しかし、現在でもサッカーハーネに信仰を持つ人々が廟を訪れ、ドアーを読むなどするとのこと。

(171) Ziyāratgāhe Chenār Jouzdār (写真 454,455,456)

Rūstāye Vādān

(北緯 35 度 35 分 15 秒東経 52 度 06 分 01 秒、標高 2081 メートル)

²⁴⁵ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.349-354. *Pazhūhesh-nāme*, p.98.

²⁴⁶ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.342-345. *Pazhūhesh-nāme*, p.98.

²⁴⁷ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.360-361.

村から3~4キロほど山道を行き、春以外は水が流れていないという川に沿って谷間を行くと見える一群の緑の中。現在は小川が流れている岸にあるチェナールの巨木。樹齢約450年と推定される²⁴⁸。

このチェナールだけではなく、チェナールの周辺も神聖な場所と見なされているとのこと。チェナールの枝には多くのダヒールが結ばれている。また、夏にはここを訪れ、食事をしたりする人も多いという。

周辺にはこれ以外にチェナールの木は見られない。

Jouz とは、ダマーヴァンド方言でクルミのこと。ダールは木を表す。チェナールの傍らには何本かの胡桃の木が見られるので、このクルミを指したものとも考えられる。

(172) Emāmzāde ‘Īsā-ollāh (写真 457,458,459)

Rūstāye Ziyārat

(北緯 35 度 33 分 55 秒、東経 52 度 10 分 58 秒、標高 1650 メートル)

村のほぼ中央部。ホセイニーエに隣接している。

木の柱が並ぶ空間は礼拝用の部屋。その奥にハラム。ザリーは少し前まで木製のものだったが、最近金属製の新しいものに取り替えられた。

部分的に増改築が行われているが、様式などから、オリジナルはサファヴィー朝時代に遡ると考えられている²⁴⁹。

(173) Emāmzāde Zein al-‘Ābedīn (写真 460,461,462,463,464)

Rūstāye Zān

(北緯 35 度 35 分 36 秒、東経 52 度 12 分 12 秒、標高 1983 メートル)

村はずれの丘の上。丘の斜面には古い墓地が広がっている。

ドームなどは持たない、日干し煉瓦と土壁の素朴な廟。壁や天井の一部が落ちるなど、近年は手入れがほとんどされていないらしい。

木のサンドウグにはダヒールが結ばれ、願い事が書かれ、廟の奥のシャムダーンには、木曜日になるとろうそくが灯されていることなどから、人々が訪れていることが明らかである。

建築年代は 150 年以上は遡らないとされる²⁵⁰。

(174) Emāmzāde Moḥammad (写真 465,466)

Rūstāye Zān

²⁴⁸ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.363.

²⁴⁹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.400-403. *Pazhūhesh-nāme*, p.100.

²⁵⁰ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.450-453. ただし、現在の廟が建てられる前に別な建物があつた可能性が指摘されている。

(北緯 35 度 35 分 41 秒、東経 52 度 12 分 05 秒、標高 1939 メートル)
丘に貼り付いた村の外。街道から入ってくると村を通り過ぎた位置にある。
丘の麓に広がる村の墓地の中。
近年増改築が行われている。
三つ並んだ真ん中の部屋がエマームザーデの葬られている部屋。その奥に、
エマームザーデの母(Bībī)の墓。
廟の建築は 8-9/14-15 世紀に遡ると考えられている²⁵¹。
木曜日の午後のみ扉が開かれている。

(175) Boq'e Seyyed Mīr Moṭahhar (Katmīr yā Gatmīr) (写真 467,468,469)

Ābe Sard

(北緯 35 度 37 分 04 秒、東経 52 度 09 分 09 秒、標高 1952 メートル)
村の奥にある墓地の中。
サファヴィー朝期の建築と考えられるが、繰り返し修復・改修が行われてきたと見られる。近年では、1316/1898-9 年と 1318/1900-1 年の間にも廟の一部が改修されていた。数年前にも、文化財保護庁などによって修理が行われている²⁵²。
アーベサルドの住民は多くがアフガン人になっており、廟を訪れる人もアフガン人がほとんどだった。果樹園や畑での労働力としてアーベサルド部の村々に住むアフガン人は多く、イラン人の地主などはほとんどがテヘラン市内に住んでいる。
現在、廟は木曜日の午後のみ開けられている。

(176) Emānzāde Bībī Zobeide (写真 470,471,472)

Rūstāye Kājān (Khorram deh)

(北緯 35 度 36 分 06 秒、東経 51 度 59 分 23 秒、標高 2012 メートル)
Emānzāde Bībī Zobeide b. Emām Mūsā b. Ja'far
山中の道が山に突き当たって行き止まった地点。一番近くの村からも自動車
車で 30 分以上かかる。
突き出した岩にはまりこむように作られた廟。
廟の奥の断崖から落ちる滝の水を集めた池の水を、ここを訪れた人は汲み、
持ち帰っている。夏には、テントを持って泊まり込む人も多いとのこと。
一部の人々にはマシュハドのエマーム・レザーの姉妹であり、エマーム・

²⁵¹ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, pp.447-449. Pāzoukī は、廟の周辺から採取された遺物などから、イスラム初期にこの廟付近に住んでいた住民が一度この地を放棄し、廟が建築された頃に再びこの地に人が住み始めていたと指摘している。Pazhūhesh-nāme, p.101.

²⁵² *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, pp.312-319. Pazhūhesh-nāme, p.98. Banā-hāye Āramgāhī, p.212.

レザーを追ってマシュハドへ行く途中、ここで亡くなり、埋葬されたと信じられている²⁵³。

改修が行われており、廟の建物や中の墓石はごく最近のもの²⁵⁴。

(177) Emānzāde Khoshnām (写真 473,474,475,476,477)

Rūstāye Tange Būlān

(北緯 35 度 32 分 12 秒、東経 52 度 04 秒、標高 1926 メートル)

ほぼセムナーン州。谷間の個人所有の土地に建つ廟²⁵⁵。

廟の周囲での盗掘により廟に被害が及んでいるが、人は良く訪れているらしく、廟内は良く整備されている。電気は通っていないが、ランプや台所用具などが用意され、訪れた人が使用している様子が見られる。

廟はティームール時代末期に建築されたと考えられる²⁵⁶。

最も近い村からでも 10 キロメートル以上離れているが、果樹のバークは周辺に多い。

(178) Do Barādar (Do Barār) (写真 478,479,480)

Rūstāye Morā

(北緯 35 度 39 分 17 秒、東経 42 度 00 分 51 秒、標高 1830 メートル)

村の入り口付近の丘の上に並んだ二つの廟。丘の斜面や丘の下は村の墓地となっている。

廟の一つの壁にめり込むように木が生えており、ダヒールが結ばれている。

廟の周囲や内部には盗掘が行われた跡が見られる。

廟の建築年代は、イールハーン朝あるいはティームール朝期と考えられる。周囲の墓地はイスラーム時代初期まで遡るとされる²⁵⁷。

(179) Ziyāratgāhe Ma'sūmzāde (写真 481)

Rūstāye Morā

Do Barādar の建つ丘の麓。

新しい建物²⁵⁸。

²⁵³ *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jelde avval, p.110. 現アゼルバイジャン共和国のバークーから逃れてきたとの伝承も存在するが(*Khātūne Haft Qal'e*, pp.183-4)

²⁵⁴ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.306-308. *Pazhūhesh-nāme* によると、取り壊される前のオリジナルの建物は 10-11/17-18 世紀に建てられたものである。(p.97)

²⁵⁵ ダマーヴァンド郡のワクフ慈善庁のリストにエマームザーデ・ホシュナームの名が見られるのでダマーヴァンド郡支部が管理を行っていると思われるが、セムナーン州のワクフ慈善庁が修理に関わったことが指摘されている。(*Āthāre Tārikhiye Damāvand*, p.440)

²⁵⁶ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.440-442. *Pazhūhesh-nāme*, p110.

²⁵⁷ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*., pp.287-281. *Pazhūhesh-nāme*, p.97.

²⁵⁸ *Āthāre Tārikhiye Damāvand*, pp.291-292. *Pazhūhesh-nāme* によると 11-12/17-18 世紀の建物がオリジナルで

どのような人物が埋葬されているかははっきりしなかった。

2003年に訪れたときには扉が閉まり、窓から覗く限り、内部は空っぽで墓石やそれに類するものは見えなかったが、2007年に訪れたときには扉が閉められ、内部も物置のようになっていた。この廟の道路を挟んだ目の前にサッカーハーネが作られ、村の人々の信仰はそちらの方に移っているように見られた。

(180) Emāmzāde Feḍḍe Shīrīn (Feḍḍe Khātūn) (写真 482)

Rūstāye Morā

(北緯 35 度 38 分 56 秒、東経 52 度 00 分 54 秒、標高 1761 メートル)

村の奥のバグの中。

盗掘が行われて廟が破損してしまったため、人が入れないようにしているとのことで、現在も、廟の周囲には囲いが作られ、簡単には廟に近づけないようになっている²⁵⁹。

村の人によると、この廟に対する信仰は以前に比べると随分と減っているため、訪れる人もほとんどいなくなっているとのことであった。

最初の廟の建築年代はサファヴィー朝時代まで遡ると考えられている。現在は、盗掘後の損壊を修理してある²⁶⁰。

(181) Saqqā-khāne Bībī Bī-Ḥaram Khānom (写真 483,484,485)

Rūstāye Morā

(北緯 35 度 39 分 17 秒、東経 42 度 00 分 51 秒、標高 1830 メートル)

Ziyāratgāhe Ma'šūmzāde と道路を挟んだ向かい。

1383S.H./2004年に村人の一人が母親を記念して建てたサッカーハーネ。

廟内には給水器の他にアーシューラーの悲劇の一場面を表した人形が置かれている。

窓に取り付けられた飾り枠には鍵やダヒール、アッバースの手などが取り付けられている。

(182) Emāmzāde Feḍḍe Khātūn (写真 486,487,488)

Rūstāye Rūhe Afzā

(北緯 35 度 43 分 39 秒、東経 52 度 4 分 23 秒、標高 2018 メートル)

Emāmzāde Feḍḍe Khātūn b. Emām Mūsā

村はずれの墓地の中。塔の形をした廟と、そこに付属したホセイニーエ。

あり、1379S.H./2000に現在の建物が建設された。(p.97)

²⁵⁹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand.*, pp.298-299.

²⁶⁰ *Pāzhūhesh-nāme*, p.97. *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.128-129.

現在は木曜日の午後のみ廟の扉を開けている。集まってくるのは女性が多いとのこと。

建築様式や残された文書などから、6-7/12-13 世紀に遡ると考えられる²⁶¹。

(183) Emānzāde Qāsem (写真 489,490,491,492)

Rūstāye Ūre

(北緯 35 度 44 分 4 秒、東経 52 度 3 分 58 秒、標高 2076 メートル)

Emānzāde Qāsem b. Moḥammad b. ‘Alī b. Moḥammad b. Abū al-Qāsem Aḥmad b. Abū al-Ḥosein ‘Alī b. Aḥmad b. ‘Alī Nazkī b. Esma‘īl b. Abū Moḥammad b. Ḥosein b. Zeid b. Emām Ḥasan Mojtabā

現在はダマーヴァンド市とつながってしまった村の外れに広がる墓地の中。塔の形をした廟とそれに付属したホセイニーエ。

現在は木曜日の午後のみ廟の扉を開けている。

建築様式から、6-7/12-13 世紀に遡ると考えられている²⁶²。

(184) Emānzāde Ebrāhīm (写真 493,494)

Rūstāye Dashtak

(北緯 35 度 45 分 35 秒、東経 52 度 03 分 36 秒、標高 2264 メートル)

Emānzāde Ebrāhīm b. Sālār b. Moḥammad b. Ḥosein b. Emām Zein al-‘Ābedīn
村はずれの丘の上。周囲は墓地。その周囲はバーク。

以前の廟は盗掘により完全に破壊されてしまい、現在の廟は最近建築されたものであるとのこと。

冬はほとんど人が訪れなくなるが、夏は村の住民や、この付近のヴィラに滞在する人が訪れることもあるとのこと。

破壊された廟の破片や周辺から採集された陶片などから、本来の廟はサファヴィー朝末期のものであったと考えられている²⁶³。

(185) Emānzāde Zein al-‘Ābedīn (写真 495)

Rūstāye Moshā

(北緯 35 度 49 分 38 秒、東経 52 度 02 分 46 秒、標高 2308 メートル)

Emānzāde Zein al-‘Ābedīn b. Ja‘far b. Emān Javād

村の北はずれ。村を見下ろす墓地の中。現在、周辺は別荘地としての開発が進み、ヴィラなどが多く建設されている。

²⁶¹ Sarvqadī, p.111. *Pazhūhesh-nāme*, p.91. *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Īrānī*, jelde avval, pp.127-128.

²⁶² Sarvqadī, p.114. *Pazhūhesh-nāme*, p.92.

²⁶³ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.214-216. *Pazhūhesh-nāme*, p.95.

廟はハラムと礼拝用の空間に分けられており、夏は村の人だけではなく、ヴィラに滞在している人も多く訪れるとのこと。

建物は近年、新しく建てられたもの。

周囲の墓地の墓石その他などから、オリジナルの廟の建築年代は 250 年前まで遡ることができると考えられている²⁶⁴。

(186) Emānzāde Do Barār (Hādī va Hāreth) (写真 496,497,498,499)

Rūstāye Moshā

(北緯 35 度 46 分 10 秒、東経 52 度 01 分 13 秒、標高 2377 メートル)

村の中にある廟。二つの塔状の廟とその間の礼拝用の空間。もともとこの部屋はなかったとのこと。

2003 年に訪れた時は壁やドームなどの表面が崩れ落ちていたが、2007 年に訪れた際には、修復が進んでいた。

この付近もヴィラの建築が進んでいる。

廟は建築様式や、周辺で採集された陶片などから 6-7/12-3 世紀に遡ると考えられている²⁶⁵。

(187) Emānzāde Hāshem (写真 500,501,502)

Jādde Harāz

(北緯 35 度 46 分 45 秒、東経 52 度 02 分 20 秒、標高 2720 メートル)

Emānzāde Hāshem b. Ḥasan b. Yaḥyā b. Ḥosein b. Qāsem b. Ṭabāṭabā b. Ebrāhīm b. Esmā‘īl b. Ḥasan Mothannā b. Ḥasan Mojtabā b. ‘Alī b. Abī Ṭāleb

マーザンダラーンのアーモルへ抜ける街道の、テヘラン側のほぼ最高地点。

テヘラン州東部で最もズィヤーラトに訪れる人が多い聖所の一つ。潤沢な予算を使い、廟の拡張だけではなく、台所やトイレなどをはじめとする廟の付属施設や巡礼宿などを次々と建築している。

もともとは、峠を吹き抜ける強い風を避けるための隊商宿の一角に設けられた、数人が入れる程度の小さな廟に過ぎなかったが、この 40 年ほどで急速に発展をしたとのこと²⁶⁶。

(188) Emānzāde Ḥamze (写真 503,504,505)

Rūstāye Āb‘alī

²⁶⁴ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.217-219. *Pazhūhesh-nāme*, p.95.

²⁶⁵ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.219-222. *Pazhūhesh-nāme*, p.95.

²⁶⁶ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.222-4. 現在、峠を吹き抜ける強い風を利用して、パラグライダーなどが廟の付近で行われている。*Pazhūhesh-nāme* はその当時の建物が 7-8/13-14 世紀のものであったとしている。(p.95) *Banā-hāye Āramgāhī*, pp.217-218.

(北緯 35 度 47 分 09 秒、東経 51 度 57 分 15 秒、標高 2263 メートル)

アーモル街道の谷間の溪流沿いにある小さな廟。樹齢 400 年ほどと推定される三本のチェナールに挟まれるようにして立つ。廟の周囲には墓地。

廟の背後からは湧き水が流れ、水槽に溜められている。

近年、崩れ落ちた壁やドームの修理を行った。

ハラムにはザリーを持たない墓石が置かれている。村からは離れているが、街道沿いにあるため人がよく訪れるらしく、廟内は清掃などが非常に行き届き、整えられている。

建築様式などから 5-6/11-12 世紀のものと考えられている²⁶⁷。

(189) Emāmzāde Şāleḥ (写真 506,507)

Rūstāye Mobārak ābād

(北緯 35 度 46 分 43 秒、東経 51 度 57 分 07 秒、標高 2268 メートル)

アーモル街道沿いの山の中腹。村からは少し距離がある。

廟の周囲には盗掘の跡が見られる。ドームや壁が一部崩落するなどしている。

廟内は空っぽで、特に墓石のようなものは見られない。

廟の周囲に新しく設けられた低い塀のようなものが見られるが、落書きがされたり手入れがされていない様子や、人々の祈りの跡が全く見られない様子を見ると、廟を人が頻繁に訪れているようには見えない。

廟の建築年代は、様式などから 8-9/14-15 世紀に遡ると考えられる²⁶⁸。

(190) Pīr Golbū (写真 508,509)

Rūstāye Āb'ālī

(北緯 35 度 45 分 06 秒、東経 51 度 57 分 40 秒、標高 2015 メートル)

アープ・アリーの奥、Qābūz Maḥalle のマスジェドと川を挟んだ向かい側に立つ何本かのチェナールの巨木。樹齢約 700 年と見られているが、現在、一部の幹は焼け、空洞になっている。また、周囲の盗掘が激しく、10 本ほどあったチェナールのうち、何本かは枯れてしまったとのこと。

昔、ここに Golbū と呼ばれるピールが住んでおり²⁶⁹、その人物を埋葬した場所だと言われている。盗掘が行われるようになってから人々のズィヤーラトガーへの信仰は薄れてしまい、アープ・アリーの住民でもこの存在を知らない人が増えている。

²⁶⁷ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.246-250. *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

²⁶⁸ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.250-252. *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

²⁶⁹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.242. 常に身体から花(gol)の香り(bū)がしていたためこのように呼ばれていたとのこと。

以前はここに温泉が湧き、シャフアーがあることで知られていたが、現在は完全に干上がり、失われてしまった²⁷⁰。

(191) Shāh Chenār (Hādī va Mahdī)²⁷¹ (写真 510,511,512,513)

Rūstāye Āb'alī

(北緯 35 度 45 分 44 秒、東経 51 度 58 分 01 秒、標高 2077 メートル)

川岸に立つ樹齢 250 年ほどのチェナールの巨木²⁷²。以前は、川の向こう岸にも同じようなチェナールがもう一本立っていたが、洪水によって倒れてしまったとのこと。

村の人たちの信仰を集めており、沢山のダヒールが結ばれ、根元に設けられたシャムダーンにはろうそくを灯した跡が多数見られる²⁷³。

(192) Emāmzāde Ebrāhīm (写真 514,515,516)

Rūstāye Karītūn

(北緯 35 度 44 分 12 秒、東経 51 度 56 分 49 秒、標高 1995 メートル)

1979S.H./2000-1 年に新たにエマームザーデとして認定された²⁷⁴。

村とは川を挟み反対側。村を見下ろす山腹。

村人がこの場所にエマームザーデがあるという夢を見た。その人物が自らをエブラーヒームだと名乗ったという²⁷⁵。

2003 年に訪れたときは、壁の一部が作られているのみであったが、外にはアラムが建てられ、ダヒールがびっしりと結ばれ、シャムダーンにもろうそくの跡が多数見られた²⁷⁶。

(193) Emāmzāde Moḥammad Taqī (写真 517,518,519,520,521)

Rūdhen

(北緯 35 度 44 分 21 秒、東経 51 度 54 分 34 秒、標高 1880 メートル)

Emāmzāde Moḥammad Taqī b. Emām Ja'far

町外れの丘の中腹。斜面に貼り付いた町の墓地の中。

²⁷⁰ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.242-243. この聖所の歴史を 3-4/9-10 世紀まで遡ることができるという指摘もある。(*Pazhūhesh-nāme*, p.95)

²⁷¹ Pāzoukī は、村人の話として、この二本のチェナールが Hādī と Mahdī と呼ばれていたとしているが(p.242)、どちらがどちらかは比定していない。筆者が住民に訪ねてみても、名前が付いていたことすら知らない人がほとんどであった。

²⁷² *Pazhūhesh-nāme* は 9/15 世紀まで遡るとしている。(p.95)

²⁷³ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.241-242.

²⁷⁴ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, 245. *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

²⁷⁵ この場所には以前、周辺住民の信仰を集めていた糸杉の木があったが、盗掘の被害に遭い、木は枯れてしまったという(*Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, p.245)

²⁷⁶ 2006 年に訪れた際にも工事はほとんど進んでいなかったが、2007 年には完成していた。

現在は枯れてしまっている大きなチェナールが外壁にめり込むようにして生えている²⁷⁷。

木のザリーの外側を金属製のザリーで覆っている。

隣接してホセイニーエが新しく建てられている。

壁面にろうそくを灯した跡が多く見られる。

建築様式などから 7-8/13-14 世紀の建築と考えられる²⁷⁸。

(194) Chahār Chenār (写真 522,523,524)

Rūstāye Mehr ābād

(北緯 35 度 42 分 08 秒、東経 51 度 54 分 38 秒、標高 1788 メートル)

村はずれの道端に立つ樹齢 150 年ほどと見られるチェナールの巨木²⁷⁹。

太い 6 本の幹の間にシャムダーンが作り付けられており、枝にはさまざまな材質のダヒールが結ばれている。

(195) Emāmzāde Qāsem (写真 525,526,527,528,529,530)

Rūstāye Gol-khandān

村はずれの丘の上。谷を挟んで古い石造りのガルエ。

周囲は墓地に囲まれているが、廟の付近の墓は掘り返されている。

2003 年から廟の修復工事が行われ、古い木のサンドウグも同時期に修理が行われた。廟の建築年代は、ティームール朝時代からイールハーン朝時代にかけてと考えられている²⁸⁰。

(196) Ptsh (写真 531)

Rūstāye Ārdīne

(北緯 35 度 48 分 02 秒、東経 51 度 53 分 17 秒、標高 2164 メートル)

村の奥の山の中に開かれたバークの中に立つ古いトゥート(桑)の木。樹齢 500 年ほどと考えられている²⁸¹。

ダヒールが結ばれたりろうそくが灯された跡があるなどといった、一見して聖所と識別できるものは見あたらず、村の人に指摘されないと聖所であるとは分かりにくい。

²⁷⁷ 2007 年に訪れたときには、この木は完全に取り払われていた。(写真 513)

²⁷⁸ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, pp.254-258. *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

²⁷⁹ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, p.276. このチェナールの枝を折ると三日以内に手を折ることになると、近隣の人々は考えているとのことである。 *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

²⁸⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.47.

²⁸¹ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, p.270. *Pazhūhesh-nāme*, p.96.

(197) Seyyed Rūhollāh (写真 532,533,534)

Rūstāye Javard

(北緯 35 度 48 分 31 秒、東経 51 度 51 分 53 秒、標高 2330 メートル)

Seyyed Rūhollāh b. Šāleḥ al-Dīn b. Ṭāher b. ‘Emād al-Dīn b. ‘Emrān b. ‘Emād b. Abī Ṭāher b. Mūsā b. Ḥamze b. Manūchehr b. Mīr Yaḥyā b. Jamāl al-Dīn b. Abī ‘Emād al-Dīn b. Ṭāher b. ‘Emrān b. Mūsā b. Aḥmad b. Mūsā b. Emām Moḥammad Taqī al-Javād

村とは街道を挟んで向かい側の山の中腹。

周囲は墓地²⁸²。

廟は新しく建てられたもの。アーイーネカーリーで飾られたハラムにザリーを持たない墓石が置かれている。

この新しい廟は、エマームザーデの子孫である人物が 1375S.H./1996 年に建築したものとのこと。

(198) Emāmzāde Ebrāhīm²⁸³ (写真 535,536,537)

Rūstāye Irā

(北緯 35 度 47 分 56 秒、東経 51 度 50 分 28 秒、標高 2327 メートル)

シャジャレ・ナーメはないが、第四代目エマーム・ゼイノルアーベディーンから三世代目のエマームザーデであると信じられている。

村とは谷を挟み向かい合った斜面の中腹。斜面に生えた杉の木の根元に簡単な墓が作られ、旗にダヒールなどが結ばれている。

ルードヘンとラヴァーサーンを結ぶ街道沿い。現在、エマームザーデの上方にある泉の傍らにマスジェドを建築中。

周辺には特に遺構・遺物は見られない²⁸⁴。

(199) Emāmzāde Solṭān Moṭahhar (写真 538)

Būmhen

Emāmzāde Solṭān Moṭahhar az navādegāne Emām Mūsā b. Ja‘far

現在の街道沿いに広がる町ではなく、昔のブームヘンの村はずれに広がる墓地の中に建つ塔。

7/13 世紀の建築と考えられる²⁸⁵。

²⁸² オリジナルの廟の建築年代は分からないが、墓石に掘られた年代などから 200 年ほど前ではないかと考えられている。(Āthāre Tārīkhīye Damāvand, pp.270-274)

²⁸³ このあたりがラヴァーサーン郡とダマーヴァンド郡の境界になっているため(Āthāre Tārīkhīye Damāvand, pp.274-275)、Pāzoukī は "Āthāre Tārīkhīye Shemtrān" でもこのエマームザーデについて触れているが、ワクフ慈善庁はこのエマームザーデをダマーヴァンド郡の管轄としている。

²⁸⁴ Āthāre Tārīkhīye Shemtrān, p.102.

²⁸⁵ Mostafavī, pp.264-265. 廟には 963/1555-6 年という年代も見られる。Banā-hāye Ārangāhī, pp.131-132.

木製のサンドゥーグはカユーマルス王の命により、847/1443-4年に作られたもの。

木曜の午後のみ扉を開けるが、その時には近隣の人が集まってくる。

(200) Emāmzāde Borhān al-Dīn (写真 539,540,541,542,543,544)

Rūstāye Vīrāne

(北緯 35 度 28 分 54 秒、東経 52 度 12 分 20 秒、標高 1533 メートル)

Emāmzāde Borhān al-Dīn az Navādegāne Emām Mūsā b. Ja'far

街道から入ってくると村の入り口に当たる場所。

廟の前には樹齢 350 年ほどと見られるチェナールの巨木。裏手に墓地。

古い土の壁に新しく煉瓦を積み上げて補修されている。

廟の入り口から入り、ハラムの手前左側にも部屋があり、廟の建築に関する人物とされる人物の墓がある。ここにも人々が訪れ、ろうそくを灯し、祈る。

部屋一杯になるような古く大きな木のザリーが置かれており、ダヒールが結ばれたり、花が飾られたりしている。

塔の形をしたハラム部分が最も古く、ティームール朝あるいはサファヴィー朝時代のものと考えられている²⁸⁶。

廟の脇を小川が流れ、この小川を挟んで古い村のハンマームがある。廟のすぐ裏手にはカールヴァーンサラー。

(201) Emāmzāde Hūd (写真 545,546)

Rūstāye Moghānak

(北緯 35 度 33 分 18 秒、東経 52 度 15 分 16 秒、標高 1818 メートル)

村はずれのバークの中にある Veh あるいは Ven と呼ばれる木。樹齢約 150 年。村の中や周囲に同種の木は見られないとのこと。

以前はこの木の傍らに小さな廟があったが最近壊れてしまったとのこと。

革命前までは人々の信仰を集めており、枝に多数のダヒールが結ばれていたとのことであるが、現在は全く見られず、村の人々は既にこの木に対する信仰心を失っているとのこと。革命後すぐから盗掘が激しく行われたことがその原因であるとの説明であった。

建物は失われてしまったが、周囲から採集された陶片などはティームール朝あるいはサファヴィー朝時代のものが多い²⁸⁷。

²⁸⁶ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, pp.420-422. *Pazhūhesh-nāme*, p.100.

²⁸⁷ *Āthāre Tārkhīye Damāvand*, p.175.

(202) Emānzādegān Ṣadr al-Dīn va Bībī Khātūn (写真 547,548,549,550)

Rūstāye Moumej

(北緯 35 度 42 分 13 秒、東経 52 度 22 分 48 秒、標高 2363 メートル)

ダマーヴァンド-フィールズクープ街道から村へ向かう脇街道沿い。村の入り口の斜面に広がる墓地の下。大きなチェナールの木の陰に並んで立つ二つの廟。

血統ははっきりしないが二人の兄妹であると言われている。

廟を覆うように立つチェナールは何度切られても、エマームザーデのバラキヤトによりまた元と同じように伸びてくるとのこと。

廟の建築年代は 8-9/14-15 世紀と考えられている²⁸⁸。

(203) Shāhzāde ‘Alī Akbar (Pīre Kājī) (写真 551,552,553,554,555)

Rūstāye Havīr

(北緯 35 度 42 分 58 秒、東経 52 度 17 分 16 秒、標高 2661 メートル)

ハヴィール村からタール湖へ向かって 3 キロメートルほどの街道沿い。

水の枯れたダツレに臨む斜面に、現在は枯れてしまった糸杉あるいは松の木が二本立っている。樹齢は 600 年以上だったと見なされている。この一本を抱き込むようにして廟が建てられている。廟の裏手に倒れた木が一本。

盗掘などにより木が倒されたり枯れたりし、土が崩れ、廟の中にまで破壊が及んだと見られる。その結果、村の人々はこの聖所への信仰心を失ってしまい、放置されているとのこと。

廟そのものはそれほど古いものではないが、周辺から採集された陶片などから、この付近の歴史が 3-4/9-10 世紀まで遡ると見なされている²⁸⁹。

(204) Shāhzāde Ḥosein (写真 556,557,558,559,560,561)

Rūstāye Havīr

(北緯 35 度 42 分 50 秒、東経 52 度 19 分 14 秒、標高 2620 メートル)

フィールズ街道からタール湖への街道沿いの村の一番奥。マスジェドとハンマームに挟まれた、現在は使われていない村の墓地の中。

三つの角錐ドームを持つ廟。入り口を入れて正面が Shāhzāde Ḥosein、右手にある二つの部屋はそれぞれ Khānom の墓とのこと。

緑の布で覆われた木製のザリーにはダヒールが沢山結ばれている。また、ザリーの上に置かれたさまざまなものにもダヒールが結ばれている。

²⁸⁸ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.170-172. *Pazhūhesh-nāme*, p.93.

²⁸⁹ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.177-178. *Pazhūhesh-nāme*, p.93.

廟の建築年代は建築様式などから 7-8/13-14 世紀と考えられている²⁹⁰。

(I) フィールーズクーフ区 (Fīrūzkūh)

テヘラン州東端にある郡。テヘラン-マーザンダラーン街道が通り、マーザンダラーン州と境を接しているため、130 キロメートル以上向こうにあるテヘランよりも、サーリーなどマーザンダラーン州の町との行き来の方が多かったという。言語的にも、セムナーン州と接している一部地域を除けばマーザンダラーン方言を話す地域がほとんどであり、文化的・経済的にマーザンダラーン州との関係の方が深かった。現在も、学校がない村では、マーザンダラーン州内の親戚の家に子供を預け、教育を受けさせているという。

アルボルズ山脈南麓の高地に広がる地域であるため、夏でも気温が 30 度を減多に超えない寒冷地である。山に降る雨雪のため、水は豊かではあるが、山間の狭い可耕地におけるジャガイモ、野菜、飼料などが生産される。また、クルミ、アーモンド、ピーナッツなどの乾果類の生産が多く、その他、林檎、梨などの果物も生産される。また、牧草が豊かであることから、牧畜も盛んである。

農閑期である冬期には、マーザンダラーン州へ出稼ぎに行く人もいるとのことで、農村人口は夏と冬で異なるという。

近年、フィールーズクーフ市郊外に工業団地が作られ、農業・牧畜に頼る経済からの脱却が測られている。

(205) Emāmzāde Esma'īl (写真 562,563,564)

Fīrūzkūh

Emāmzāde Esma'īl b. Emām Mūsā b. Ja'far

現在のフィールーズクーフの中心からは少し外れた場所。旧市街のはずれ²⁹¹。背後にガルエのある山を背負い、山に貼り付くように立っている。目の前には水路。

フィールーズクーフで最も人々の信仰を集めている聖所の一つだとのことで、革命後、人々から集められた寄付金により、大理石張りの床、アーイーネカーリーで装飾された大きな廟が建てられ、ザーエルサラール(巡礼宿)を備えたエマームザーデ事務所も設けられた。夏になると巡礼宿は常に満員に近い状態になるとのこと。

(206) Emāmzādegān Ebrāhīm va Esma'īl (写真 565,566)

²⁹⁰ *Āthāre Tārīkhīye Damāvand*, pp.173-177. *Pazhūhesh-nāme*, p.93.

²⁹¹ Pāzoukī Ṭoroudī, Nāsher, *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, Tehrān, 1381S.H./2001, pp.45-46.

Firūzkūh

フィールズクーフから線路沿いにテヘラン側に走る。フィールズクーフ市街とは山を挟んだ裏側にあたる。

現在も使用されている古い墓地の中。

屋根が落ちるなどして廃墟同然ではあるが、人が訪れている痕跡は見られる。

(207) **Emānzāde Khātūne Qiyāmat (Bibī Ṭāhere)**²⁹² (写真 567,568)

Firūzkūh

フィールズクーフの中心部にある、町を見下ろす丘の上。

周囲には墓地が広がっている。

建物は近年建てられた新しいもの。木製のザリーが置かれている。

木曜日になると女性たちが訪れるという。

(208) **Emānzādegān Sobhān, Kan‘ān va Borhān** (569)

Firūz-kūh

Emānzāde Esma‘īl よりもフィールズクーフの旧市街中心部のバーザールに近い小路の中。

小さなドームを持つ新しい廟。以前の廟は完全に壊れてしまったため、近年になって立て直したものだとのこと²⁹³。

(209) **Emānzādegān Shabī va Shebr** (写真 570,571,572)

Firūzkūh

(北緯 35 度 45 分 16 秒、東経 52 度 46 分 01 秒、標高 2000 メートル)

フィールズクーフの旧市街に近い丘の上。Emānzāde Esma‘īl を見下ろすようにして立つ二つの廟。

周囲や内部が盗掘されるなどして荒廃し、現在は完全に廃墟となっている。人が訪れている様子は全く見られない。その結果、ワクフ慈善庁の管理リストからは近年になって外されている。

周囲には古い墓地が見られるが、現在は使用されていない。

80 年ほど前に建てられたものと見られる²⁹⁴。

²⁹² ワクフ慈善庁から渡されたリストでは Emānzāde Khātūne Qiyāmat となっているが、文化財保護庁のリストなどでは Emānzāde Bibī Ṭāhere となっている。(Āthāre Tārīkhīye Firūz-kūh, pp.47-48. Pazhūhesh-nāme, p.181)

²⁹³ Āthāre Tārīkhīye Firūz-kūh., p.47. Pazhūhesh-nāme, p.181.

²⁹⁴ Āthāre Tārīkhīye Firūz-kūh, pp.52-53. Pazhūhesh-nāme においては周囲の墓の年代から、廟の建築の年代も 9-10/15-16 世紀としている。(p.181)

(210) Emāmzāde ‘Alī (写真 573,574)

Fīrūzkūh – Amīriye - Shahrake Şan‘at

(北緯 35 度 47 分 06 秒、東経 52 度 47 分 29 秒、標高 2035 メートル)

フィールズクープの東、アミーリーエ村の外れ、現在建設中の工業団地の入り口に向かう道路脇に立つ廟。

現在は周囲や内部など、盗掘が激しく行われ、完全に廃墟となっており、人が訪れている様子は全く見られない。

廟の建築年代は 5-6/11-12 世紀に遡ると考えられる²⁹⁵。

(211) Emāmzādegān Aḥmad Reḍā va Ḥasan Reḍā (写真 575,576,577,578)

Rūstāye Kamand

フィールズクープ-セムナン街道沿いの丘の上。村とは川を挟んで向かい合っている。廟の背後が崖のように落ち込んだ丘の突端。

ドームを持つ二つの廟が隣り合って立っている。

廟の内外の盗掘が激しく行われ、廟の損壊が酷い。廟の中には棺や墓石らしいものは見あたらない。

昔は、何かあると人々は廟を訪れ、祈りを捧げたり、羊を犠牲に捧げたりしていたが、廟が荒らされるに従い、村の人々のエマームザーデに対する信仰心は薄れてしまい、現在は全く人は訪れなくなっているとのこと。

建築様式や周辺で採集された陶片などから、ティームール朝時代の建築と見なされている²⁹⁶。

(212) Mīr Shekār²⁹⁷ (写真 579,580)

Rūstāye Sarānzā

村からは離れた丘の上。

盗掘が激しく行われ、廟も崩れ落ちている。

40 年ほど前まではドームを持つ廟であり、人がよく訪れていたとのこと。しかし、廟が崩れてしまっただけからではなく、人々の関心が薄れてしまい、訪れる人がいなくなってしまったとのこと。近くの村に住む人々によると「シャジャレもないし、そういうエマームザーデは偽物だから」、とのことである。

(213) Emāmzāde Esma‘il (写真 581,582,583)

²⁹⁵ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, p.56, *Pazhūhesh-nāme*, p.181.

²⁹⁶ Pāzoukī はこの二つの廟をエマームザーデではなく、監視台だったのではないかとしている。(*Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.70-71) *Pazhūhesh-nāme*, p.182.

²⁹⁷ Pāzoukī (pp.76-77), *Pazhūhesh-nāme* (p.182)が古い時代のタッペとしているものと同じかどうか確認ができない。

Rüstāye Tāram

(北緯 35 度 44 分 23 秒、東経 53 度 03 分 46 秒、標高 2447 メートル)

冬期以外は干上がっている川に面した斜面の中腹。以前はゲシュラーグであったとのことであるが、現在も春から夏にかけては、近隣の農村から多くの羊たちがこの付近に集められている。

廟の上の斜面にある岩の下から水が湧いており、その周囲にはろうそくの跡が多く見られる。

廟の前にはゼレシュクの大木が立っており、ダヒールが結ばれている。

現在の廟はごく最近建てられたもの。手前の部屋にも奥の部屋にもここに葬られているとされる人物の墓石を示すようなものが見られない。

オリジナルは 500 年ほど前に遡ると考えられている²⁹⁸。

(214) Emānzādegān ‘Abdollāh, ‘Abdol-Javvār va ‘Abdol-Qahhār (写真 584)

Rüstāye Pīrdeh

街道沿いにある、村を見下ろす丘の上。周囲は村の墓地。

ハラムの中に被葬者を示す墓石などのようなものは見あたらない²⁹⁹。

近年、改修などが行われたが、廟の建築年代は 7-8/13-14 世紀に遡るとされる³⁰⁰。

(215) Chahārdah Ma‘šūm (585,586,587)

Rüstāye Dardeh

村の奥にある石造りの廟。壁やドームの痛みが激しく、修理が行われていた。

2003 年には、ハラムは空であった。以前は 14 の墓石が置かれていたとのことであるが、村の人たちによると、政府(ワクフ慈善庁)により持ち去られたとの話であった³⁰¹。

廟に付属して小さな部屋が作り付けられており、こちらにも小さな墓石が見られる。Tāher という、埋葬されている 14 人の中心である Tāyeyb の子供であるとのこと。

2005 年に訪れた際には、修復はほぼ終わっていたが、今度は廟の入り口が

²⁹⁸ *Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kūh*, pp.88-89. cf. *Pazhūhesh-nāme*, p.183. ここでは 8-9/14-15 世紀となっている。

²⁹⁹ 筆者が訪れたのは 2003 年であるが、1381S.H./2002-3 年に出版された Pāzoukī の *Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kūh* によると、三つの木製サンドウーグが並んでいるとなっている。(p.98)

³⁰⁰ *Pazhūhesh-nāme*, p.189.

³⁰¹ Pāzoukī によると、盗掘が行われ、十字架が発見されたと言われているとのこと。(*Āthāre Tārikhīye Fīrūz-kūh*, pp.102-103) この村では、昔キリスト教徒(アルメニア人)とムスリムが共に生活していたとのことである。そのため、村の人々が外敵に襲われた際に逃げ込むための「キリスト教徒の城塞」と「ムスリムの城塞」が二つ、村の外に作られていたとのことである。(*ibid.*, p.102)

ふさがれていた。村の人の話によると、理由は分からないが政府が塞いでしまったとのこと。Ṭāher の廟のみ立ち入ることができる。

建築年代などははっきりしていない³⁰²。

(216) Emāmzāde Esma‘īl (写真 588)

Rūstāye Mahābād

村とは線路を挟んで正面にある険しい山の中腹。村からは岩などが邪魔をしていて廟は見えにくい。

廟の作られている斜面の下の方には村の墓地が広がっている。

建物は最近建設されたもの。えぐれた岩壁を覆うようにして廟が作り付けられている³⁰³。

現在の建物に建て替えられる前のものは 10-11/16-17 世紀に遡ることができたと考えられている³⁰⁴。

(217) Do Teflān (写真 589,590)

Rūstāye Mahābād

村の中にあるホセイニーエの一角。建物の土台となっているコンクリートによって固められた二つの墓石。

この墓にまつわる伝承などは特に伝わっていないが、二人の子どもの墓だと言われている。村の人々の信仰を集めていて、人々がよく訪れているとのこと。

(218) Emāmzāde ‘Abdollah (写真 591)

Rūstāye Anzahā

(北緯 35 度 35 分 46 秒、東経 52 度 37 分 42 秒、標高 1653 メートル)

村はずれの墓地の中。川の畔。

改修中で中には入ることができなかった。

非常に古いズィヤーラト・ナーメが廟には保存されており、文化財保護庁で調査中とのことであった³⁰⁵。

建築年代は 7-8/13-14 世紀に遡ると考えられている³⁰⁶。

(219) Emāmzādegān Yahyā va ‘Abdollah (写真 592,593,594,595,596)

³⁰² *Pazhūhesh-nāme*, p.189.

³⁰³ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.108-109.

³⁰⁴ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.108-109. *Pazhūhesh-nāme*, p.187.

³⁰⁵ これについては Pāzouki が詳細に報告を行っている。(pp.116-118)

³⁰⁶ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kāh*, pp.113-114. *Pazhūhesh-nāme*, p.187.

Rūstāye Marzdārān

Emānzādegān Yaḥyā va ‘Abdollah b. Emām Mūsā b. Ja‘far

村の奥の小高くなった場所。周囲は墓地。

廟の少し下にはチェナールの巨木。墓地の下には古いハンマーム。

1362H.S./1983-4 年の冬に酷い盗掘が行われ、廟が完全に壊れてしまったため、その後新しい廟を建てたとのこと。オリジナルは建築様式などから7-8/13-14 世紀のものと見なされていた³⁰⁷。

ザリーは 1381S.H./2002-3 年に金属製のものに取り替えられた。古い木製のザリーも廟の一角に置かれたままになっている。

廟の地下には泉が湧いており、この水はどんな水不足の年にも干上がることはなく、また水質にも何の変化も見られないという。この水にはシャファアーを非常に強く持っており、病気などを治すという。

(220) Emānzāde ‘Alī (写真 597,598)

Rūstāye Dehgardān

村の中。古いハンマームの近く。

一見、民家にも見える廟。部屋の中には土で作った墓が作られている。

屋根が落ちかかるなど、手入れがされないまま放置されていることは明らかであり、人が訪れている様子も見られない。

サファヴィー朝時代に作られた可能性が指摘されている³⁰⁸。

(221) Emānzāde Qāsem (写真 599,600)

Rūstāye Dehgardān

(北緯 35 度 33 分 35 秒、東経 52 度 35 分 45 秒、標高 1615 メートル)

村の外れに建つ廟。

数年前の地震によって壊れてしまったとのこと。村の人々によると、地震後、村の人々のエマームザーデに対する信仰への関心が薄れてしまったため、誰も修理をしようとしないのだという。入り口の天井が落ちるなどして廟内へ入るのも大変で、人が訪れている様子は全く見られない³⁰⁹。

廟の建築年代はサファヴィー朝に遡ると考えられている³¹⁰。

³⁰⁷ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.132-133. *Pazhūhesh-nāme*, p.187.

³⁰⁸ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, p.137. *Pazhūhesh-nāme*, p.188.

³⁰⁹ Emānzāde ‘Alī も Emānzāde Qāsem も、人が訪れている様子は見られず、エマームザーデに対する信仰心が失われてしまったように見えるが、「とてもバラキヤトがある」とは信じられている。そのために誰も盗掘を行わないのだということである。Pāzoukī もそれについて指摘しており、盗掘をしようとした人物が失明したという話を紹介している。

³¹⁰ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, p.137. *Pazhūhesh-nāme*, p.188.

(222) Emānzāde Bībī (写真 601,602,603)

Rūstāye Andvar

現在は廃村となっている村から山へ向かって2~3キロメートルほど。

部分的に修理はされているが崩落が進んでいる廟。周囲には盗掘の跡も見られる。2001年にはまだ部分的に残っていた石造りの部屋も2003年にはほとんどなくなってしまっていた。

廟内には埋葬者を示す墓石などは見られない。壁などは落書きで一杯であり、聖所として人々に敬意は払われなくなっているように見られる。

建築様式などから7-8/13-14世紀のものと考えられている³¹¹。

(223) Emānzādegān Ma‘šūm, Soleimān va Bībī³¹² (写真 604,605,606,607,608)

Rūstāye Jalīzjand

村はずれの小川のほとり。背後の斜面には墓地が広がっている。

塔状の建物に二つの部屋が付属している。村の人によると、塔状の建物に Soleimān、そこに隣接した部屋には、周囲を回ることも難しいほど部屋一杯のサイズの木製サンドウグが置かれ、Ja‘far と Moḥammad が葬られ、その隣の小さな部屋に Bībī Khātūn が葬られているという³¹³。

この四人の関係や血統は明らかではないが、家族あるいは親戚であるとのこと。

塔の部分は古いが、二つの部屋は新しく付け加えられたものとされている。オリジナルの年代ははっきりしない³¹⁴。

(224) Shāh Ṭāher (写真 609,610,611)

Rūstāye Nām- āvar

(北緯 35 度 48 分 47 秒、東経 52 度 44 分 32 秒、標高 2141 メートル)

村の外れの丘の上。周囲は墓地。

建物は大分傷んでおり、崩れかかっている部分もある。

入り口を入れてすぐの部屋にある木製のサンドウグに納められた棺が Shāh Ṭāher。その奥の通路あるいは細長い部屋にももう一つ布がかけられた墓石があり、村の人々の崇敬の対象となっている。こちらの名前は分からない。

周辺から採集された陶片などから、10-11/16-17 世紀の建築と推測されてい

³¹¹ *Āthāre Tārīkhīye Fīrūz-kūh*, pp.295-297. *Pazhūhesh-nāme*, p.182. *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, p.108.

³¹² ワクフ慈善庁のリストによると、Emānzāde Soleimān となっている。

³¹³ Pāzoukī によると、塔がマアスム、その隣がソレイマーン、小部屋がビービーとなっている。(p.287-289) *Dāyerat al-Ma‘ārefe Zane Irānī*, jelde avval, pp.129-130.

³¹⁴ *Pazhūhesh-nāme*, p.183.